

CALLERLAB

MAINSTREAM DANCE PROGRAM DEFINITIONS



メインストリーム ダンス プログラム 動作の定義

Revised February 22, 2020

2020 年 2 月 22 日改定(分割第 9 版)



一般社団法人

日本スクエアダンス協会

Japan Square Dance Association

目 次

コールと関連用語のアルファベット順索引	4
---------------------------	---

総記	5
----------	---

Introduction (前置き).....	5
-------------------------	---

History (履歴)	5
--------------------	---

Scope (目的範囲)	6
--------------------	---

Approach (取り組み方)	6
------------------------	---

Standardization (標準化).....	7
----------------------------	---

Proper vs. Improper (適切と不適切)	7
------------------------------------	---

Conventions and Rules (約束事と規則).....	8
-------------------------------------	---

Passing Rule (通り過ぎるときの規則)	8
---------------------------------	---

Same Position Rule (同一位置の規則).....	8
-----------------------------------	---

Facing Couples Rule (向き合っているカプルの規則)	9
--	---

Ocean Wave Rule (オーシャンウェイブの規則)	9
--------------------------------------	---

Squared Set Convention (スクエアセットの約束事) .	10
--	----

Circle Rule (サークル時の規則).....	11
-----------------------------	----

Ways of Naming Dancers (ダンサーの呼び方).....	12
--	----

Partner/Corner (パートナーとコーナー)	12
-----------------------------------	----

Heads/Sides (ヘッズとサイズ).....	13
----------------------------	----

Couple #1,#2,#3,#4 (カプルNo. 1、No. 2、No. 3、 No. 4).....	14
--	----

Boys/Girls (ボーイズとガールズ)	15
------------------------------	----

Centers/Ends (センターズとエンズ)	15
--------------------------------	----

Leaders / Trailers (リーダーズとトレイラーズ)	17
---	----

メインストリームプログラム定義	18
-----------------------	----

1. Cloverleaf(クローバーリーフ)	18
-------------------------------	----

1.a. Cloverleaf (クローバーリーフ-皆がアクティブ) .	19
--------------------------------------	----

1.b. Cloverleaf (クローバーリーフ-2カプルのみアクテ ィブ)	19
--	----

2. Turn Thru (ターン スルー)	20
------------------------------	----

3. Eight Chain Thru (エイト チェイン スルー)/.....	21
Eight Chain 1, 2, 3, etc.(エイト チェイン 1、2、3等)	21

4. Pass to the Center (パス トゥー ザ センター)	22
---	----

5. Thar Family (ザー ファミリー)	22
---------------------------------	----

5.a. Allemande Thar (アレマンド ザー).....	23
-------------------------------------	----

5.b. Allemande Left to an Allemande Thar (アレマンド	
---	--

レフト トゥ アン アレマンド ザー)	24
---------------------------	----

5.c. Wrong Way Thar (ロング ウエイ ザー).....	24
---------------------------------------	----

6. Slip The Clutch (スリップ ザ クラッチ).....	25
---------------------------------------	----

7. Shoot the Star (シュート ザ スター) / Shoot the Star Full Around (シュート ザ スター フルアラウンド)	26
---	----

8. Single Hinge (シングル ヒンジ)/Couples Hinge (カ プルズ ヒンジ)	27
---	----

8.a. Single Hinge(シングル ヒンジ)	27
-----------------------------------	----

8.b. Couples Hinge (カプルズ ヒンジ).....	28
------------------------------------	----

9. Centers In (センターズ イン)	28
--------------------------------	----

10. Cast Off 3/4 (キャスト オフ スリー クォーターズ)	29
---------------------------------------	----

11. Spin the Top (スピン ザ トップ)	30
------------------------------------	----

12. Walk And Dodge (ウォーク アンド ドッジ).....	31
--	----

13. Slide Thru (スライド スルー)	32
---------------------------------	----

14. Fold (フォールド) / Cross Fold (クロス フォールド)	33
--	----

15. Dixie Style to an Ocean Wave (ディキシー スタイル トゥー アン オーシャン ウエイブ).....	36
---	----

16. Spin Chain Thru (スピン チェイン スルー)	37
--	----

17. Tag the Line Family (タッグ ザ ライン ファミリー)	38
--	----

17.a. Tag the Line (タッグ ザ ライン) (In/Out/Left/Right) (イン/アウト/レフト/ライト)	38
--	----

17.b. Fraction (1/4, 1/2, 3/4) Tag (フラクション (ワン クォーター、ハーフ、スリー クォーターズ) タッグ)	39
--	----

18. Scoot Back (スクート バック)	40
---------------------------------	----

19. Recycle (リサイクル) (ウェイブからのみ)	41
--------------------------------------	----

付加細目	43
------------	----

Starting Formations (動作を始める隊形)	43
--------------------------------------	----

Commands (指示)	43
---------------------	----

Extra words (付け足し語句)	43
----------------------------	----

Plain English (平易な英語)	43
-----------------------------	----

Extensions like Reverse Wheel Around (リバース ウイ ール アラウンドのような応用)	43
--	----

Fractions (分数)	43
----------------------	----

Gimmicks (特異な動き)	43
------------------------	----

Bending vs. breaking the definition (定義の歪曲と破	
--	--

棄)	43	2-Dancer Formations (ダンサー2人の隊形)	47
Do Your Part (自分の動作すべき部分)	43	4-Dancer Formations (ダンサー4人の隊形)	47
Centers Zoom (センターズ ズーム)	43	8-Dancer Formations (ダンサー8人の隊形)	47
Extend and Tag The Line (エクステンドとタッグ ザ ライン)	43	追記B: 記述用語法	47
Dance Action (動作)	43	Adjacent (アジェイセント)	47
Defining Calls with Arm Turns (アームターンの動作定義)	43	Couples (カプルズ)	47
Definitional Precision (定義詳細)	43	Face Left (フェイス レフト) / Right (ライト) / In (イン) / Out (アウト)	47
Blending one call into another (動作の別のコールとの組み合わせ)	43	Home (ホーム)	47
Who is active (アクティブとなる人)	43	Left (レフト)	48
What does naming a dancer mean? (ダンサーを名付ける意味)	44	Opposite (オポジット)	48
Square Breathing (スクエアの拡大と縮小)	44	Promenade Direction (プラマネイド ディレクション)	48
Timing (タイミング)	44	Pull By (プル バイ)	48
Styling (スタイリング)	45	Rear Back (リア バック)	48
Posture (姿勢)	45	Reverse (リバース)	48
Dance Step (歩き方)	45	Right-Hand Lady (ライト ハンド レイディー)	48
Arms and hands (腕と手)	45	Set or Square (セットまたはスクエア)	49
Inactive dancers (インアクティブ ダンサー)	46	Step Thru (ステップ スルー)	49
Other styling terms and issues (他のスタイリングにおける用語と問題)	46	Turn 1/4 (ターン クォーター) / 1/2 (ハーフ) / 3/4 (スリークォーターズ) /	49
BOW (バウ-挨拶) (HONORS-(オーナーズ-敬意を表する挨拶))	46	Full Turn By The Left/Right (フル ターン バイ ザ レフト/ライト)	49
To Your Partner (パートナーに対して):	46	Those Who Can (ゾウズ フー キャン)	49
To Your Corner (コーナーに対して):	46	Working As A Unit (ワーキング アズ ア ユニット)	49
Regional styling differences (スタイリングにおける地域差)	46	追記C: その他の刊行物	49
Teamwork (チームワーク)	46	Publications for dancers (ダンサー用刊行物)	49
Embellishments (装飾用語)	46	Publications for callers (コーラー用刊行物)	49
追記	47	Foreign language publications (外国語刊行物)	49
追記A: 隊形	47	2000年9月20日以降の変更履歴	50

コールと関連用語のアルファベット順索引

1/2 Tag	39	Pack-saddle Star	45
3/4 Tag the Line	39	Palm Star	45
Adjacent.....	47	Partner	12
Allemande Left to an Allemande Thar.....	24	Pass to the Center.....	22
Allemande Thar	23	Passing Rule.....	8
Bow	46	Posture.....	45
Box Star.....	45	Promenade Direction	48
Boys	15	Promenade Ending Twirl.....	48
Cast Off 3/4.....	29	Pull By	48
Centers	15	Rear Back	48
Centers In.....	28	Recycle.....	41
Circle Rule.....	11	Reverse (used as a prefix)	48
Cloverleaf	18	Right Pull By.....	48
Corner.....	12	Right-Hand Lady	48
Couple #1, #2, #3, #4.....	14	Same Position Rule	8
Couple Handhold	45	Same-Sex Couple	47
Couples	45	Sashayed Couple.....	47
Couples Hinge	28	Scout Back	40
Cross Fold.....	34	Set	48
Dance Step	45	Shoot the Star	26
Dixie Style to an Ocean Wave.....	36	Sides	13
Eight Chain Thru.....	21	Single Hinge.....	27
Ends.....	15	Skirt Work	46
Face Left / Right / In / Out.....	47	Slide Thru.....	32
Facing Couples Rule	9	Slip the Clutch	25
Facing Dancers.....	47	Spin Chain Thru	37
Fold.....	33	Spin the Top.....	30
Forearm Hold	45	Square.....	49
Fraction (1/4, 1/2, 3/4) Tag.....	39	Squared Set Convention	10
Girls	15	Step Thru.....	49
Half Tag.....	39	Styling	45
Hands Up Hold.....	45	Tag the Line (In/Out/Left/Right)	38
Handshake Hold	45	Thar Family.....	22
Heads.....	13	Those who can	49
Home.....	47	Timing.....	44
Honors	46	Trailers	17
Leaders	17	Turn By The Left / Right.....	49
Left (used as a prefix)	48	Turn Thru	20
Left Pull By	48	Walk And Dodge.....	31
Loose Handhold.....	45	Working as a unit.....	49
Normal Couple	47	Wrong Way Promenade Direction	48
Ocean Wave Rule	9	Wrong Way Thar	24
Opposite.....	48		

総記

Introduction (前置き)

メインストリームダンスプログラムの隊形、用語および動作(スタイリングやタイミングを含む)は、すべて本「CALLERLAB メインストリーム動作の定義」に、詳細にわたり説明される。更に、コール方法、ダンスの仕方、コールの組み合わせについてもいろいろと約束事があり、これについても記述される。

History (履歴)

メインストリームダンスプログラムは歴史的にかなりベーシックダンスプログラムに関係している。ベーシックプログラムは1969年に50の動作として公表された。セッツインオーダーアメリカンスクエアダンス協会が1969年に行った作業に続く、現代のウエスタンスクエアダンスの動作を成文化する第2段階といえる。1971年に25の動作を加えた‘拡大ベーシックプログラム’を公表した。これがメインストリームを産み出す基礎となっている。

1970年代も遅くなってから、メインストリーム定義委員会が、ベーシック・メインストリーム動作のそれぞれを定義する作業に入った。この作業には数年かかり、13案が起草されたが、CALLERLAB はその1案を公表し、全世界で受け入れられ、容認された。

別の委員会であるタイミング委員会とスタイリング委員会は別角度からメインストリームダンスを補足して、標準化を行い指針を作り出した。定義、スタイリングとタイミングがそれぞれ完成されると結合され、‘CALLERLAB ベーシック・メインストリーム動作の定義’として発行された。今ではベーシックダンスプログラムリストには51の動作が、メインストリームダンスプログラムリストにはベーシックダンスプログラムに続く17動作が含まれている。

1994年にはこの定義はインターネットからも入手可能となり、更なる普及、標準化、論議を促進することとなった。

1995年には、時代にあったコールをしてゆくために、微細な部分を決定付けるのに、この定義集では細かい部分や正確性の面で十分ではないことが明らかになっていた。また、ある場合では、混乱を招く書き方、稚拙な言葉使いや、不明瞭な表現が見受けられた。この現存した定義集をたたき台にして、また、数多くの論評、提案、苦情を考慮し、1999年から完全な書き換え作業が始まり、本文書に至っている。

定義の書き換えは継続しており、2016年には定義委員会との共同でメインストリーム委員会はこの作業手順を加速させている。

さらに2016年にメインストリーム委員会はベーシック・メインストリーム・リストを分割してそれぞれに番号をつける採決を行った。これに続けて2017年には二つのリストを別々に発行する評決も行った。本文書は「メインストリームダンスプログラムの動作の定義」を含んでいる。どうか「ベーシックダンスプログラム動作の定義」もコールの参考にしてください。

スクエアダンスコールやリストを成文化し初めたころから、ベーシック・メインストリームプログラ

ムは進化と発展の歴史を共有している。この共有された歴史と相互関係はメインストリーム委員会によって監視されている。

Scope (目的範囲)

この定義書は本文書が最初に草稿されたとき(すなわち2003年)にコールされ踊られていた動作について述べている。何が明らかで、何が混乱を招き、何が限界使用といえるか輪郭を明瞭に示すよう試みている。メインストリームプログラム内のそれぞれの動作について、一般的な使い方から最も稀な使用方法まですべてを包含して記述した。しかしながら、ダンサーが教えられる必要のない大昔の使い方については記述しないようにした。

コーラーまたは知識を得たいダンサーは本文書から次のことが入手できるでしょう。

1. 各動作の正確な説明
2. 動作のコール例
3. スタイリングとタイミング
4. 容認できる動作と不適切な動作を見分ける能力

この定義書は新人ダンサー手引書ではなく、新人コーラー手引書でもない。また、スクエアダンスを一度も踊ったことがない、スクエアダンスとはかけ離れた人たちが、本書によって簡単にスクエアダンスが踊れるようになるため書かれたものでもない。動作の定義書は動作を教えるための最良の教科書であるとはいえない。同様に、動作を教えるため、または動作を早く覚えるために使われる最良と思われる言葉は、必ずしも、優れた正確で完璧な定義ではない。このために必要とされる記述は他の発行物を見たほうがよりよいと思われ、補足Cに示す。

タイミングとスタイリングについての記述は前タイミング・スタイリング委員会が作成した文書に基づいている。それぞれの動作が最も頻繁に使われる使われ方に興味がある読者は、ダンスの組み立て構成委員会が作成した、メインストリーム・スタンダード・アプリケーション小冊子を参照されたい。

正確で完璧を求め、また、普段はあまり使わない動作を行うときの微細な部分に関する論議や討議を纏めようとするとき、本定義書を紐解き、より詳しい説明を得ていただきたい。各動作定義の注釈の部分と第4部付加細目に多くを付託してある。

Approach (取り組み方)

本動作の定義書はスクエアダンスコーラーの組織により記述され発行されているが、ダンサーとコーラー両領域にまたがって提供されるべきものである。ダンサー中心またはコーラー中心のものではない。

コーラーダンサー間で展開され、瞬時にほとんど何の努力もなく理解され、処理され、実行される共通の”スクエアダンス言語”を記述しようとしている。

動作とその定義の包含に加えて、コーラーがコールし、ダンサーが聞く実際の言葉を記述している。

この言葉はすべて英語ではあるが、指示される語句は言語である英語とは別の”スクエアダンス言語”で形成される。この指示される語句はコーラーからの伝達を処理する重要な一部となる。

現代ウェスタンスクエアダンスコールにおける動作や言葉は1950年から1970年の間に一変した。

当初ダンスはそれぞれあらかじめ組み立て構成(動作と韻を踏んだパターコールの両方)されており、主題が名づけられ、特有な曲と対で使われた。音楽をかける前にコーラーはダンサーに一度歩かせて練習し、全体の動作と型を思い出させた。この練習に使われた言葉は叙述的な英語の言い回しと基本的なスクエアダンス動作の組み合わせであった。

より多くの動作が作り出されるようになると、この事前の練習は行われなくなり、ダンサーは次に何が来るか知らないで次のコールに反応するよう期待されるようになった。この”ハッシュ”コール方式が進展してくると、コーラーとダンサー間で正確な意思の疎通が行われることがより必要となった。

人間の言語には癖、例外、たくさんの慣用句、特有の表現法が存在する。今スクエアダンス言語を再び作り出すとすれば、より少ない改良でよいかもしれないし、大きな改良を少なからず行わなければならないかもしれない。より簡単で、より矛盾のない定義付けをする必要がある。

Standardization (標準化)

コーラーとダンサーの移動性を容易にすることが、ダンスプログラムと動作の定義を標準化するひとつの理由である。何処でまた誰からダンスやコールを習ったとしても、同じダンスプログラムを踊る何処のグループを訪問しても、楽しく踊ることやコールすることができるべきである。

世界中でコールは英語で行われ、定義もまた英語である。標準化を別の局面から見ると、各種のプログラムに亘って行われている。あるダンスプログラムはそれ以前のダンスプログラムからの動作や定義をすべて踏襲している。ほとんど例外なく、動作は一度定義されるとすべてを包含し、別のプログラムでは定義が異なるということはない。

スタイリングにおいてもまた標準化が行われている。1970年代ならびに1980年代に長足の進歩を遂げたが、ある地域やグループでは、コーラーラブで承認されたスタイリング(例えば、オーシャンウェーブにおけるハンズ アップとハンズ ダウン)とは異なったスタイリングを使い続けている。1992年にCALLERLAB 会員は、すべてのダンサーにある一つのスタイリングを行わせることには無理があるとの認識を示し、CALLERLAB はスタイリングには地域差が存在するとの動議を採択した。

Proper vs. Improper (適切と不適切)

CALLERLAB 会員(とその他)が奨励したい動作や意思疎通方法を記述するため、適切、容

認可能、許容可能という言葉が適宜使われる。 コーラーたちは、その最善の能力を以って、新人ダンサーを教育し、現存するダンサーにコ CALLERLAB 方式のコールを経験させようとする。

不適切または適切ではないという言葉は、定義に従って、CALLERLAB が奨励しない使い方を記述する場合に使用される。

コールの組み立て構成を律する治安部隊はない。 不適切なコールの組み立て構成や良くないコールに対する法律也没有。 コーラーは最大限の注意を払い、また、良き判断力を持って、この共通言語を使って、ダンサーを楽しませなければならない。 ダンサーはこの言葉を長期にわたり教えられ、多くの時間を使ってダンスを練習している。 コーラーはダンサーとの適切か不適切かというつまらない議論に訴えることなく、本文書を利用し、ダンサーとは好ましい意思疎通を保つべきである。

Conventions and Rules (約束事と規則)

スクエアダンスにはある一定の約束事が定められた領域がある。 ある約束事は多くのダンサーやコーラーが従うようになると規則に進展する。

約束事を多くのダンス例から引き出し、規則化することには危険がある。 この規則を読んで、この規則を基に、新しいコールの組み立て構成を行う人も出てくると思われる。 規則によってスクエアダンスが進展する方向は規則を産んだ約束事に一致しない可能性がある。 すなわち、スクエアダンスは長年コールしているコーラーや長期に亘って踊っているダンサーの意図しない方向へ進んでゆくことになる。

次の約束事や規則によりスクエアダンスが踊られる方法と理由を説明する。 読者は慎重にょき判断力を以って、現在流布されているこれまでの使い方ではなく、以下の規則を基に新しいコールの組み立て構成を創造するべきである。

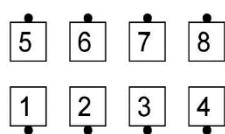
Passing Rule (通り過ぎるときの規則)

本動作の定義により二人のダンサーが同じ経路を進み、互いに通り過ぎる必要がある場合は、(別に指定されない限り)右肩で通り過ぎ、動作を続ける。 鏡像に変換して(ミラーで)踊る場合は左肩で通り過ぎ、動作を続ける。(例: Left Double Pass Thru)

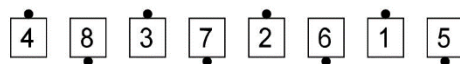
Same Position Rule (同一位置の規則)

二人のダンサーが同一位置で動作を終わってこの位置に止まり、互いに反対方向を向く場合は右手のミニウエイブを作る。 もし調整が必要な場合は(一人のダンサーであるべき隊形に二人のダンサーが横に並ぶので)、一緒に動いている組の外方向へ横側に調整する。 コーラーは二人のダンサーが同一方向を向いて終わり、または直角で終わり同一位置に止まるコールをすべきではない。

例: Circulate 1 1/2 (サーキュレート ワンス アンド ア ハーフ)



開始位置



終了位置

Facing Couples Rule (向き合っているカプルの規則)

オーシャンウェイブから始めると定義された動作のうちいくつかは、向かい合ったカプルから始めても適切といえる。例えば、Swing Thru (スウィング スルー)、Spin The Top (スピンザ トップ)である。

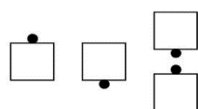
この場合ダンサーは一歩進んで即座にオーシャンウェイブを作ってから、コールされた動作を行う。

コーラーが左手からのコール(例: Left Swing Thru-レフト スウィング スルー)を指示した場合は、即座に左手オーシャンウェイブを作る。

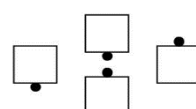
向き合っているカプルの規則が適用される場合、本動作の定義書ではこの効果があることを注釈の中で述べる。このような注釈がない場合は、向き合っているカプルの規則は使えない。

向き合っているカプルの規則とは呼ばれるものの、向き合っているダンサーが一歩進んだ右手のミニウェイブ、向かい合っているラインが一歩進んだ右手のタイダルウェイブ等も概括的に含まれる。

次のようなミニウェイブと向き合っているダンサーが混合した動作を始める隊形も、まれではあるが、適切である。



Swing Thru (スウィング スルー)



Swing Thru (スウィング スルー)

向き合っているカプルの規則の適用により動作のタイミングは変わらない。

Ocean Wave Rule (オーシャンウェイブの規則)

向き合っているカプルから始めるよう定義された動作も、右手のオーシャンウェイブから始めることは適切といえる。例えば、Right And Left Thru (ライト アンド レフト スルー) と Square Thru (スクエア スルー) である。この場合ダンサーはすでに向き合っているダンサーに一歩進んだ位置にあり、指示された動作の残りを完了すればよい。

ダンサーを教え理解させるためには、ダンサーを向き合っているカプルの位置まで後退させ、

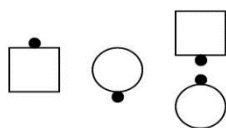
改めてウェイブに戻し、動作を完了してみる必要があるかもしれない。

この規則はオーシャンウェイブの規則とは呼ばれるものの、ミニウェイブ(向き合っているダンサー)、タイダル ウェイブ(向かい合っているライン)等も概括的に含まれる。例えば、Pass Thru (パス スルー)、Slide Thru (スライド スルー)、Box The Gnat (ボックス ザ ナット)、右手の1/4タッグ隊形から Double Pass Thru (ダブル パス スルー)、右手のオーシャンウェイブ隊形から Pass To The Center (パス トゥ ザ センター)が動作可能である。

オーシャンウェイブの規則を適用するためには、動作は Box The Gnat (ボックス ザ ナット)、Pass Thru (パス スルー)または Right Pull By (ライト プル バイ)から始まるものでなければならない。更に、オーシャンウェイブからは動作できないものに定義づけしてはならない。

例えば、Circulate (サーキュレイト)はエイト チェーン スルー隊形とオーシャンウェイブ隊形からと定義付けられている。オーシャンウェイブ隊形から Circulate (サーキュレイト)をコールし、ダンサーに互いに通り過ぎる動作をさせるとしたら、オーシャンウェイブの規則上不適切である。当然ダンサーはオーシャンウェイブ隊形から Circulate (サーキュレイト)の定義を適用するからである。

次のようなミニウェイブと向き合っているダンサーが混合した動作を始める隊形も、稀ではあるが、適切である。



Right And Left Thru (ライト アンド レフト スルー)

オーシャンウェイブの規則の一部である調整を行っても、その動作の結果は変わらない。一部分を加えたり減じたりはせず、分数を使うことはない。ミニウェイブのダンサーが一度向き合った位置に後退し、改めて動作を行うようなものである。例えば、右手のミニウェイブから Dosado (ドーサードー)を行うと、向き合っているダンサーとして動作を終わり、右手のミニウェイブでは終わらない。

オーシャンウェイブの規則は向き合っているカプルから始まる動作にも適用される。ダンサーが左手のオーシャンウェイブにいるときも同じである。この場合はコーラーは左手からの動作、例えば Left Square Thru (レフト スクエア スルー)、を指示しなければならない。第4部:付加細目:指示: Reverse Wheel Around (リバース ウィール アラウンド)の拡大解釈を参照されたい。

半分のダンサーがミニウェイブで、他の半部分が向き合っているカプルの状態にあり、二人のダンサーでできる動作をコールする場合、例えば Box The Gnat (ボックス ザ ナット)、Slide Thru (スライド スルー)、Pass Thru (パス スルー)、コーラーは誰が(例えば Everybody=皆、Those Facing=向かい合っている人)この動作をするのかはっきりさせる必要がある。

オーシャンウェイブの規則の適用により動作のタイミングは変わらない。

Squared Set Convention (スクエアセットの約束事)

向き合っているダンサーまたは向き合っているカプルが動作を始める隊形と定義されている動作は、スクエアセットから始めることも可能で、適切である。 コーラーはどのペア、例えば Heads (ヘッズ)、Boys (ボーイズ)、が動作を始めるか指示しなければならない。 指示された Active (アクティブ)ダンサーはセットの中央に進み出て動作を行う。 Active (アクティブ)ダンサーがまだ指示を受けていない Inactive (インアクティブ)ダンサーと向かい合って動作を終わった場合、この Active (アクティブ)ダンサーはセットの中央にいる。 例えば、Heads Square Thru 4 (ヘッズ スクエア スルー フォー)、Heads Star Thru (ヘッズ スター スルー)、Heads Touch 1/4 (ヘッズ タッチ ア クォーター)である。

Active (アクティブ)ダンサーが Inactive (インアクティブ)ダンサーとは向き合わないで動作を終わった場合は、Active (アクティブ)ダンサーはスクエアセットの位置へ行く。 はっきりした理由がある場合はこの限りでなく、中央に止まる。 ダンサーがスクエアセットの位置へ行く動作の例は、Head Ladies Chain (ヘッズ レディース チェーン)、Heads Right And Left Thru (ヘッズ ライト アンド レフト スルー)、Heads Pass Thru (ヘッズ パス スルー)、Heads Square Thru 3 (ヘッズ スクエア スルー スリー)である。

動作が終わったときの手の取り方が理由で、Heads Box The Gnat (ヘッズ ボックス ザ ナット)の場合では、Heads (ヘッズ)は中央に位置し次の動作を行う。 例えば Heads Right And Left Thru (ヘッズ ライト アンド レフト スルー)、Sides Right And Left Thru (サイズ ライト アンド レフト スルー)のように、通常は次のコールから動作終了の正確な位置は明らかであるが、次の動作をダンサーが引き続いて行うものかは、はっきりしない。 例えば、Heads Pass Thru、Separate、Around 1 To A line (ヘッズ パス スルー、セパレイト、アラウンド ワン トゥ ア ライン)である。

Active (アクティブ)ダンサーを中央に留め置きたいために、“Heads Move In (ヘッズ ムーブイン)”、“Heads Move Forward (ヘッズ ムーブ フォワード)”または“Heads Move Into The Center (ヘッズ ムーブ イントゥ ザ センター)”とコールするコーラーがいる。 例えば、“Heads Move In And Square Thru 3 (ヘッズ ムーブイン スクエア スルー スリー)”で、これは Heads (ヘッズ)がこの動作後スクエアセットの位置まで行かないで、中央に止まってもらいたいことを意味する。

タイミングとしては、Move into the center (ムーブ イントゥ ザ センター)は次の動作に2拍を加える。

中央から出るために必要な時間は、動作の最終部分に融合されることが多いことに注意する必要がある。

例えば、Right And Left Thru (ライト アンド レフト スルー)の Courtesy Turn (カーテシー ターン)を行っているときである。 また、次の動作の開始部分と重なる場合もある。 例えば、Heads Right And Left Thru (ヘッズ ライト アンド レフト スルー)、Sides Right And Left Thru (サイズ ライト アンド レフト スルー)である。

Circle Rule (サークル時の規則)

8人の内向きの Circle (サークル)から、コーラーが隣り合った二人のダンサーとその向かいの人を名指しして、向き合っているカプルから始まる動作をコールした場合、ダンサーは、サ

ークルがあたかもスクエアセットに変わったように対処し、スクエアセットの約束事に従う。

コール例： スクエアセットから

Join Hands, Circle Left; Heads Up To The Middle And Back; Heads Square Thru 4.

Heads Half Sashay; All Circle Left; 4 Boys Spin The Top.

Ways of Naming Dancers (ダンサーの呼び方)

スクエアでダンサーを識別する方法はいろいろあり、”第4部:付加細目:ダンス行為:ダンサーの呼び方が意味するもの”を参照されたい。

Partner/Corner (パートナーとコーナー)

コール例:

Face Your Partner; Dosado

Face Your Corner; Allemande Left

Circle Left; Swing Your Partner

4 Ladies Promenade Inside; Swing Your Partner

解説:

普通のカプルのスクエアセットでは、各ダンサーのパートナーは隣にいるダンサーで、各ダンサーのコーナーはそのダンサーが”一番近いスクエアセットの角”を回って次にいるダンサーである。

カプルまたはミニウエイブでは、それぞれのダンサーは隣の人のパートナーである。

男性と女性が交互に並ぶ8人の内向きサークルでは、男性のパートナーはサークル上で彼から反時計回り方向にいる隣のダンサーで、コーナーは時計回り方向のダンサーである。女性については、パートナーがサークル上の時計回りにいて、コーナーが反時計回りにいる。

パートナーとコーナーはダンス中、特にシンギングコール中には変わる。 Allemande Left (アレマンド レフト)、Swing (スウィング)、Promenade (プラマネイド)は新しい当座の(Current)パートナーを成立させる。最初にスクエアセットに共に入ったダンサーは当初の(Original)パートナーで、ダンスが終わるまで変わらない。

注釈:

”4 Ladies Promenade Inside; Swing Your Partner”で、パートナーとはこのコールが始まる直前のパートナーを意味する。

最初のスクエアセットに帰す(すなわち、ダンサーを当初のパートナーとコーナーに戻す)ため、(オーシャンウエイブは向かい合っているカプルに直し、皆をセットの中心に向かせ、8人の内向きサークルにして)、コーナーは男性のコーナーを時計回り方向の隣にいる女性として確認することが有効である。 こうすることにより、アラメンド レフトの後プラマネイドする男性

のパートナーは、いろいろな動作を行った後も、彼から反時計回り方向の隣の女性となる。

Heads/Sides (ヘッズとサイズ)

コール例:

Heads Right and Left Thru

Head Ladies Chain

Sides Wheel Around

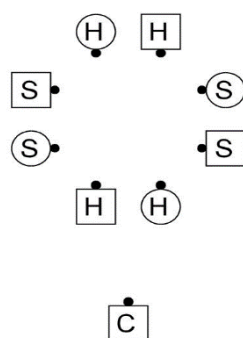
Sides Trade

Original Heads

Those In The Head Position

解説:

スクエアセットからコールを始めるとき、Heads (ヘッズ)は二つの向かい合うカプルで、コーラーに前を向けている組と背を向けている組である。Sides (サイズ)は二つの向かい合うカプルで、コーラーに対して直角に立つ組である。



C = コーラー H = Heads (ヘッズ) S = Sides (サイズ)

ダンサーが Heads (ヘッズ)であるか Sides (サイズ)となるかは最初にスクエアセットを作ったときに決まる。すなわち、Heads (ヘッズ)は”当初からのヘッズ”を意味する。例えば、Heads Run、Heads Trade、Sides Pass Thru、Sides Fold である。

スクエアセットで、当初のサイズがヘッズの位置にいる場合、コーラーは明確に、”Original Heads (オリジナル ヘッズ=当初のヘッズ)”または”Those In The Head Position (ゾーズ イン ザ ヘッド ポジション=ヘッドの位置にいる人)”と指示しなければならない。ただ Heads (ヘッズ)というと当初と当座の両方を意味してしまうからである。Sides (サイズ)の場合も同様である。

スクエアセットで、ヘッズとサイズが混ざってヘッズの位置にいる場合、コーラーは明確に、”Head Men And The Girl With You (ヘッド メン アンド ザ ガール ウイズ ユー=ヘッドの男性と一緒にいる女性)”または”Those In The Head Position (ゾーズ イン ザ ヘッド ポジション=ヘッドの位置にいる人)”と指示しなければならない。ただ Heads (ヘッズ)というと当初と当座の両方を意味してしまうからである。Sides (サイズ)の場合も同様である。

ヘッ드의男性とサイドの女性がプラマネイドしている場合、”Heads (ヘッズ)”というと、”ヘッ드의男性と共にいるサイドの女性”を意味する。例えば、Heads Wheel Around (ヘッズ ウィール アラウンド)である。Sides (サイズ)についても同様である。

シンギングコールのフィギュアではほとんどの場合女性はそれぞれ次の男性へと進む。この場合女性は一時的にヘッズかサイズとなり、その男性のホーム位置に進む。

ある地域では、シンギングコールの前に”Rotate (ローテイト)”または”Stir The Bucket (スターザバケット)”を行う。すなわち、セットを右方向に90度回転し、皆が新しいホーム位置に移動する。この動きはコーラーがハッシュの最後のコールとして組み立て構成することも可能であり、またダンサーはシンギングコールが始まる前に動くこともできる。いずれにしても、ダンサーはシンギングコールのため新しいヘッズとサイズとなる。

Couple #1,#2,#3,#4 (カプルNo. 1、No. 2、No. 3、No. 4)

コール例:

Couples 1 and 3 make a Right Hand Star

1 and 3 Lead Out To The Right

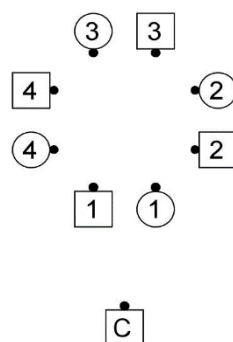
Couple 1 Split Couple 3, Round one to a line

解説:

スクエアセットからコールを始めるとき、コーラーに背中を向けている組が、カプルNo. 1で、その右の組がカプルNo. 2というように続く。

ダンサーの番号はスクエアセットを最初に作ったときに設定される。

シンギングコールのフィギュアではほとんどの場合女性はそれぞれ次の男性へと進む。この場合女性は一時的に男性のカプル番号となり、その男性のホーム位置に進む。



C = コーラー

注釈:

”Couples 1 And 3 (カプルズ ワン アンド スリー)”と”1 And 3 (ワン アンド スリー)”は”Heads (ヘッズ)”と同じである。

最近のコール組み立て構成においてはダンサーを識別する場合カプル番号を使わない。上記 Heads/Sides (ヘッズとサイズ)を参照されたい。

Boys/Girls (ボーイズとガールズ)

コール例:

Boys Run

Girls Trade

Men Circulate; Ladies Trade

Cloverleaf; Ladies Lead Dixie Style to a Wave

All 4 Ladies Chain

解説:

Boys(ボーイズ)は最初にスクエアセットを作ったダンサーで、各カプルの左側ダンサーである。Girls(ガールズ)は最初にスクエアセットを作ったダンサーで、各カプルの右側ダンサーである。Boys(ボーイズ)の同意語として、Men(メン)、Gents(ジェンツ)、Gentlemen(ジェントルメン)、Guys(ガイズ)が使われ、Girls(ガールズ)の同意語として、Women(ウイメン)、Ladies(レイディーズ)、Gals(ギャルズ)使われる。

注釈:

ダンサーの実際の性にかかわらず、最初にスクエアセットを作った時、カプルの左側に立ったダンサーはBoys(ボーイズ)の役割を果たし、右側のダンサーはGirls(ガールズ)の役を行う。

スクエアダンスではすべての指示は男性に出されると唱えるコーラーは多く、女性は注意して反対の動きををすると言う。最近の教え方、コールの組み立て構成、コールでは、この陳述は誤解を招き、一般的に真実とはいえない。たいていの動作は性には関係なく定義される。たいていの指示はアクティブダンサーに与えられる。コーラーはこの神話が永続しないように教え、コールするべきである。

Centers/Ends (センタースとエンズ)

コール例:

Each Side, Centers Trade

On Your Own Side, Centers Trade

Centers Of Each Side, Pass Thru

Center 4, Walk And Dodge

Ends Fold

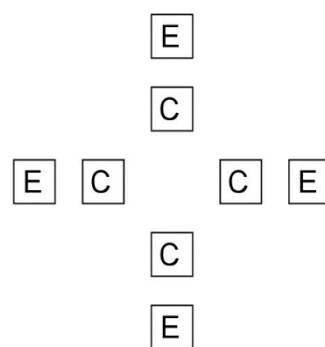
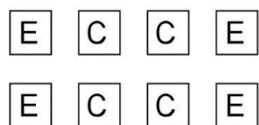
解説:

スクエア(または隊形)の中心が”Centers (センタース)”と呼ばれる。スクエア(または隊形)の外側が”Ends (エンズ)”と呼ばれる。一般的な隊形の”Centers (センタース)=C”と”Ends (エンズ)=E”を次に示す:

E	C	C	E
---	---	---	---

4人1列の隊形: ”Centers (センタース)=C”と”Ends (エンズ)=E”

8人になると隊形により可能性は増える:



4人2列の隊形: "Centers"と"Ends"

一般的なザー隊形: "Centers"と"Ends"

コーラーは"Each Side (イーチ サイド)、Centers (センターズ)"または"Center 4 (センター フォー)"

とコールし、8人1列隊形の Centers (センターズ)に生ずるあいまいさを避ける必要がある。

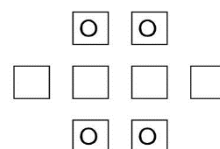
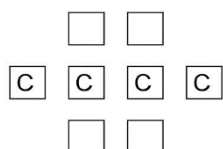
次は比較的少ないと思うが、定義を参照されたい:



8人1列隊形: "Each Side, Centers"または
"Each Side, Ends"



8人1列隊形: "Center 4"



一般的なタッグ隊形: "Center 4"または"Centers"

一般的なタッグ隊形: "Outside 4"



8人1列隊形: "Outside 4"



一般的なタッグ隊形: "Center 6"

一般的なタッグ隊形: "Outside 6"



8人1列隊形: "Very Centers"



8人1列隊形: "Very Ends"

Leaders / Trailers (リーダーズとトレイラーズ)

Leaders and Trailers(リーダーズとトレイラーズ)についてよく理解することが重要となる。動作を定義し(例えばCloverleaf)、教えるときに(例えばZoom)利用されるからである。また、この言葉はダンス中にコールされる場合もある(例えばLeaders Trade)。

コール例:

Double Pass Thru; Leaders Trade

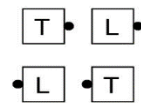
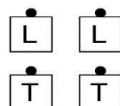
Lines Forward And Back; Pass Thru; Tag The Line; Leaders U-Turn Back

解説:

どのようなボックス隊形であっても(例えばbox circulate-ボックス サーキュレイト, tandem couples-前後の関係にいるカプル), ボックスから外を向いている人がLeaders(リーダーズ)で、ボックスの中を向いている人がTrailers(トレイラーズ)である。

他のダンサー二人が作る隊形(例えば前後の関係にいるカプル、向かい合ったカプル、背中合わせとなったダンサー)では、ダンサー二人が作る隊形の中心から外を向いている人がLeaders(リーダーズ)で、ダンサー二人が作る隊形の中心へ向いている人がTrailers(トレイラーズ)である。これ以外の人にはLeaders(リーダーズ)でもTrailers(トレイラーズ)でもない。

下図において、“L”と記された人がLeaders(リーダーズ)で、“T”と記されたダンサーがTrailers(トレイラーズ)である。



注釈:

メインストリームにおいては、Leaders(リーダーズ)とTrailers(トレイラーズ)は普通 tandem couples(前後の関係にいるカプル)またはtandem dancers(前後の関係にいるダンサー)に限って使われる。

アクティブダンサーを指定する場合、ひとつ以上の選択肢が存在する場合がよくある。Leaders and Trailers(リーダーズとトレイラーズ)が正しいであろう場合も、“Boys/Girls(ボーイズ/ガールズ)”、“Centers/Ends(センタース/エンズ)”、“First/Next(ファースト/ネクスト)”が使われる場合も比較的多く、時によってはこちらのほうがセットを壊さなくて済むかもしれない。

メインストリームプログラム定義

各動作の定義は8部で構成される。

1. 動作名

ダンスプログラムに書かれているもの。通常はこの名前がコールされる。

2. 動作を始める隊形

実用的でない場合を除き、一般的な動作を始める隊形をすべて記載した。稀に”のみ”という言葉を使った場合があるが、これは記載した動作を始める隊形のみを指示するもので、これ以外は使用すべきではない。本定義集に使われるすべての隊形は”隊形”追記に定義される。更に、動作を始める隊形については第4部付加細目内に解説した。

3. コール例

動作をコールするために使われる言い回しを数多く記載した。最も単純なものまたは最も一般的なものから記載している。決まり文句やコールを助成する言葉を記載した場合もある。

4. 動作

英語、他の動作名またはその両方を使って、動作をどのように行うかを説明。複雑な動作は順を追って部分部分に分解して説明される。また、記載されたすべての動作を始める隊形から記述した。出来るだけ動作の本質を捉えて言語化するよう努力した。追記B:”記述用語法”と”第4部:付加細目:動作:定義詳細”を参照願いたい。

5. 動作を終わる隊形

読者が動作を理解できたかどうか、ダブルチェックできるように、動作を終わる隊形を附した。本定義書に使われるすべての隊形は追記A:”隊形”に明示する。

6. タイミング

それぞれの動作を実行する際には、音楽の各1拍に合わせて1歩を進むが、この歩数(拍数)はタイミング委員会によって定められ、それぞれの動作に与えられている。”第4部:付加細目:タイミング”を参照願いたい。

7. スタイリング

手の位置、手の取り方やスカートの使い方など推奨スタイリングを示した。詳しくは”第4部:付加細目:スタイリング”を参照してください。

8. 注釈

動作についての重要情報、解明、例外、使い方をこの項に包含した。

1. Cloverleaf(クローバーリーフ)

Cloverleaf(クローバーリーフ)の総合的な動作としては、ダンサーが円上を3/4前進して、自分たちの4分円内に止まることである。高速道路のランプや4つ葉のクローバーの一葉の端を思い浮かべれば、動作の軌跡がよくわかる。

1.a. Cloverleaf (クローバーリーフ-皆がアクティブ)

動作を始める隊形： ダブル パス スルーが終わった隊形。

コール例：

Cloverleaf

Everyone Cloverleaf

動作：

リードの位置にいる人は互いにパートナーと離れるように別れ、円周上を3/4(270度)回る。

反対側から来た別のリードの人と近づいたとき、互いに外側の手を伸ばし、カプルの手のとり方でパートナーとなってスクエアの中央に進み、中向のカプルとなる。

後ろに位置した人(トレイラー)はその前の人(リーダー)に続き、真後ろに位置して動作を終わる。

動作を終わる隊形： ダブル パス スルー

タイミング： 8拍。

スタイリング：

腕は自然な手の位置で、スカートワークは自由。 互いに別れる前に共に少し前進することが重要である。 後ろに位置した人(トレイラー)はリーダーの通った後を進み、隅切りをしない。互いにカプルとなる時にはカプルの手のとり方となる。

1.b. Cloverleaf (クローバーリーフ-2カプルのみアクティブ)

動作を始める隊形： 2カプルが何処かでセットの外を向いている隊形(例えばTrade By-トレイド バイ)。

コール例：

Boys are a couple looking out of the set: Boys Cloverleaf

Squared set: Heads Turn Thru and Cloverleaf

Squared set: Heads Square Thru; Pass Thru; Cloverleaf while the centers Square Thru

Squared set: Sides Pass Thru and Cloverleaf; Heads Square Thru 2 and Cloverleaf; New Centers Right and Left Thru; Double Pass Thru; Ends Cloverleaf; others Partner Trade; You're Home

動作：

指示された人はセットの外を向いていなければならない。 この人たちがセットの中心にいる場合は、まず前進して、次に互いにパートナーと離れるように別れ、円周上を3/4(270度)回

る。セットの反対側から来た人に会ったとき、カプルとなって中心を向く。もし他に誰も前にいなければ、Cloverleaf (クローバーリーフ-皆がアクティブ)のリーダーと同じように、セットの中心で動作を終わる。

インアクティブダンサーが中心を向いたカプルのときは、このカプルがセンターとなる。

動作を終わる隊形： 各種。 アクティブダンサーが中向のカプルとなる。

タイミング：

アクティブダンサー： 6拍(または、センターに入る場合： 8拍)。 インアクティブダンサー： 0拍(センターとして始めた場合)または2拍(エンズとして始めた場合)。

スタイリング：

腕は自然な手の位置で、スカートワークは自由。 互いにカプルとなる時にはカプルの手のとり方となる。

注釈：

次のコールはたびたびインアクティブダンサーに対して与えられ、アクティブダンサーがCloverleaf (クローバーリーフ)をまだ動作中に動き始めることが出来る。

2. Turn Thru (ターン スルー)

動作を始める隊形： 向かい合った人。

コール例：

Turn Thru

Swing Thru; Turn Thru

Girls Turn Thru

Squared set: Heads Turn Thru; Separate, Around 1 To A Line

Heads Square Thru 4; Spin The Top; Turn Thru; Courtesy Turn

動作：

滑らかなひとつの動きとして、前進してウェイブを作り(手は前腕をとる)、右手で半分周り、通り過ぎる。

動作を終わる隊形： 背中合わせ。

タイミング： 4拍。

スタイリング：

Allemande Left (アレマンド レフト)に相似。 普通に前腕を取り、男性の自由な手は自然なダンス位置に取り、女性の自由な手はスカートを振ることが望ましい。

注釈：

オーシャンウェイブの規則が適用される。

Turn Thru(ターン スルー)は常に180度回転である。アラモ リングから皆をAllemande Left(アレマンド レフト)させたい場合は、Turn Thru(ターン スルー)ではなく、Arm Turn(アーム ターン)が適切なコールであろう。

3. Eight Chain Thru (エイト チェイン スルー)/

Eight Chain 1, 2, 3, etc.(エイト チェイン 1、2、3等)

動作を始める隊形: エイト チェイン スルー。

コール例:

Eight Chain Thru

Eight Chain 3

Eight Chain 4

Eight Chain 1, Allemande Left

動作:

適切な数の動作を行う。

●全員、右手 Pull By(プル バイ)。(エイト チェイン ワンの完了)。

●中央で左手 Pull By(プル バイ)。エンズはCourtesy Turn(カーテシー ターン)。(エイト チェイン トゥーの完了)。

●全員、右手 Pull By(プル バイ)。(エイト チェイン スリーの完了)。

●中央で左手 Pull By(プル バイ)。エンズはCourtesy Turn(カーテシー ターン)。(エイト チェイン フォーの完了)。

●全員、右手 Pull By(プル バイ)。(エイト チェイン ファイブの完了)。

●中央で左手 Pull By(プル バイ)。エンズはCourtesy Turn(カーテシー ターン)。(エイト チェイン シックスの完了)。

●全員、右手 Pull By(プル バイ)。(エイト チェイン セブンの完了)。

●中央で左手 Pull By(プル バイ)。エンズはCourtesy Turn(カーテシー ターン)。(エイト チェイン エイトの完了)。

動作を終わる隊形:

エイト チェイン スルー(Eight Chain Thru)は、エイト チェイン スルー隊形で終わる。

エイト チェイン 1、3、5 などは、トレイド バイ隊形で終わる。

エイト チェイン 2、4、6 などは、エイト チェイン スルー隊形で終わる。

タイミング:

エイト チェイン スルー 20拍。(エイト チェイン 1、3、5 など奇数動作の時には、それぞれ2拍を、エイト チェイン 2、4、6 など偶数動作の時には、それぞれに3拍を加える。
(例: エイトチェイン 3 = 2 + 3 + 2 = 7 拍)

スタイリング:

Right And Left Thru(ライト アンド レフト スルー)に同じ。中央で左手を取り、通り過ぎるダンサーは、外側で Courtesy Turn (カーテシー ターン)をする組と拍数を合わせるようにゆっくり動作を行う。

エイト チェイン スルー(Eight Chain Thru)の各部分は、エイト チェイン スルー隊形またはトレイド バイ隊形で終わる。ダンサーはWrong Way Grand(#8c)(ロング ウエイ グランド(#8c))のような円弧上の隊形にいつの間にかならないようにすべきである。

注釈:

Ocean Wave Rule(オーシャン ウェーブの規則)が適用される。

メインストリームでは、Courtesy Turn(#15)(カーテシー ターン(#15))は、男性が女性を回転させる時だけと、制限されている。従ってメインストリームでは、Eight Chain Thru(エイト チェイン スルー)は、Heads Square Thru 4, Sides Half Sashay の後では、不適切だ。しかしながら Eight Chain 3(エイトチェインスリー)は妥当だろう。

4. Pass to the Center (パス トゥー ザ センター)

動作を始める隊形: エイト チェイン スルー。

コール例: Pass To The Center

動作:

Pass Thru (パス スルー)し、外に出た人は Partner Trade (パートナー トレイド)。

動作を終わる隊形: ダブル パス スルー。

タイミング: 中央で動作を終わる人が2拍、外で動作を終わる人が6拍。

スタイリング: Pass Thru (パス スルー)と Partner Trade (パートナー トレイド)に同じ。

注釈:オーシャン ウェーブの規則が適用される。

Pass Thru (パス スルー)ではあるダンサーは中心に入ってくるが、他のダンサーは外側へ出る。向かい合ったラインからこのコールをするのは不適切である。

このコールを左手のオーシャン ウェーブから行うのは不適切である。 10. Pass Thru(パス スルー)参照。

5. Thar Family(ザー ファミリー)

Thar Family(ザー ファミリー)の Thar(ザー)と Wrong Way Thar (ロング ウエイ ザー)は動いている隊形である。 中心にいるダンサーはバック サドル スター(“付加細目:スタイリング”参照)を保持し、後ろ向きに歩を進める。 中心の各ダンサーは外側に隣接し、前進するダンサーとフォアアーム グリップを維持する。

Thar Family(ザー ファミリー)はいくつかある最も古いコールで、伝統的な言葉数の多い様式で伝えられ、実際の指示言語と補助的な言語間の分けがあいまいである。 いつもの通

り、コーラーが何を望んでいるのか、ダンサーが理解できるように指示を伝えるのがコーラーの責任である。

Thar Family(ザー ファミリー)のタイミング数は Thar(ザー)の回転を数えない。

5.a. Allemande Thar (アレマンド ザー)

“Allemande Thar (アレマンド ザー)”は隊形の一つである。ベーシック動作リストにその名があるが、動作そのものではなく、むしろ Thar(ザー)を作るための指示を集めたものとしてリストした。指示は接尾辞として機能し、Left Arm Turn(レフト アーム ターン)を Thar(ザー)で終わらせる。補助的な説明言語もしばしばコールの一部となる。

動作を始める隊形： Left Arm Turn(レフト アーム ターン)からの移行。

コール例：

Walk Around The Corner; Turn Partner Left And Make An Allemande Thar

Walk Around Your Corner; Turn Partner Left For An Allemande Thar, Men In The Middle Of A Backup Star

Walk Around The Corner; Turn Partner Left A Full Turn, Girls In The Middle Of An Allemande Thar

Do Paso, Turn Partner Left, Corner Right, Partner Left, Boys Swing In To A Thar

Boys Make A Right Hand Star, Turn It Once Around, Find Your Corner, Turn Corner Left To An Allemande Thar Star With The Girls In The Center

Right And Left Grand, But On Your Fourth Hand Make An Allemande Thar, Men Back In

動作：

ダンサーは引き続き左手で Arm Turn(アーム ターン)を半分(1/2)回り、中心で右手のスターを作り後退する。外側のダンサーは中心ダンサーの左前腕を保持し、前進する。

動作を終わる隊形： 動いている Thar(ザー)。

タイミング： 2拍(Left Arm Turn 1/2(レフト アーム ターン ハーフ)について)。

スタイリング：

中心ダンサーは後退し、バック サドル スターを作る。この中心ダンサーは外側をより大きく歩くダンサーが調子を乱すことなく歩けるよう配慮することを忘れてはいけない。

女性が外側を歩く場合はスカートワークを行ってもよい。

注釈：

コーラーは誰が中心に入って終わるかを指示することも度々あるが、特に標準的な使い方ではない場合は役に立つ。

多くの場合、ダンサーは Left Arm Turn 1/2(レフト アーム ターン ハーフ)を行う。すなわち、ダンサーは肩と肩が並んだ時に前腕をとるが、外側になったダンサーが中心に入って終わる。コーラーは別の角度を指示してもよい。例えば、Circle Left, Turn Your Corner Left

All The Way Around To An Allemande Thar, Men In The Center である。

Allemande Thar (アレマンド ザー) はサークルを構成する振付の一部であり、左手のウエイブから Turn Partner Left to An Allemande Thar をコールするのは不適切である。

“Allemande Left to an Allemande Thar (アレマンド レフト トゥ アン アレマンド ザー)”には特別な意味があり、下 (#5.b) に説明する。ここではコーナーと Left Arm Turn (レフト アーム ターン) をして引き続き Thar (ザー) を作ることは意味していない。この動作をするのであれば、“Allemande Left, Hang On To Corner, Women Wheel In To An Allemande Thar”を使えば可能である。

5.b. Allemande Left to an Allemande Thar (アレマンド レフト トゥ アン アレマンド ザー)

動作を始める隊形: Allemande Left (アレマンド レフト)

コール例:

Allemande Left To An Allemande Thar, Go Right And Left And Form A Star

Allemande Left To An Allemande Thar, Go Forward Two, Men Swing In To A Backup Star

Allemande Left To An Allemande Thar, Go Right And Left And Make An Allemande Thar

動作:

Allemande Left (アレマンド レフト); 右手を引っ張って通り過ぎる: Left Arm Turn (レフト アーム ターン) をして男性が中に入り Thar (ザー) を作る。

動作を終わる隊形: 動いている Thar (ザー)。

タイミング: 12拍。

スタイリング: Allemande Thar (アレマンド ザー) (#5.a) に同じ。

注釈:

ダンサーが Allemande Thar (アレマンド ザー) (#5.a) との混乱を避けるため、コーラーは常に“前進”を意味する “go forward” の指示語を入れなければならない。単に “Allemande Left To An Allemande Thar” とコールするだけでは不適切である。さらに、“go forward two (二人進む)” がもっとも使われているが、指示しなければならない。

コーラーはダンサーに対して前進する数をいくつでも指示できる。最後の手を除き、それぞれの手は引っ張って通り過ぎる Pull By (プル バイ) で、最後の手は Thar (ザー) または Wrong Way Thar (ロング ウエイ ザー) に入る最初の Arm Turn (アーム ターン) を始める手である。

5.c. Wrong Way Thar (ロング ウエイ ザー)

Wrong Way Thar (ロング ウエイ ザー) は隊形の一つである。ベーシック動作リストにその名があるが、動作そのものではなく、むしろ Wrong Way Thar (ロング ウエイ ザー) を作るための指示を集めたものとしてリストした。指示は接尾辞として機能し、Right Arm Turn (ライト ア

ーム ターン)を Wrong Way Thar (ロング ウエイ ザー)で終わらせる。補助的な説明言語もしばしばコールの一部となる。

動作を始める隊形: Right Arm Turn (ライト アーム ターン)からの移行。

コール例:

Allemande Left; Turn Partner Right, Girls Swing In Make A Wrong Way Thar

Allemande Left; Turn Partner Right A Full Turn, Boys Swing In Make A Wrong Way Thar

Turn Partner Left; Turn Corner Right To A Wrong Way Thar (men will be in the middle)

Do Paso; (at the end of the Do Paso) Go To The Corner Turn Her By The Right, Make A Wrong Way Thar

Allemande Left In The Alamo Style; Swing Thru; Turn By The Right 3/4 To A Wrong Way Thar

動作:

ダンサーは引き続き右手で Arm Turn (アーム ターン)を半分(1/2)回り、中心で左手のスターを作り後退する。外側のダンサーは中心ダンサーの右前腕を保持し、前進する。

動作を終わる隊形: 動いている Wrong Way Thar (ロング ウエイ ザー)。

タイミング: 2拍 (Right Arm Turn 1/2 (ライト アーム ターン ハーフ)について)。

スタイリング: Allemande Thar (アレマンド ザー)(#5.a)に同じ。

注釈: Allemande Thar (アレマンド ザー)(#5.a)を参照。

6. Slip The Clutch (スリップ ザ クラッチ)

動作を始める隊形: 動いている Thar (ザー)、動いている Wrong Way Thar (ロング ウエイ ザー)。

コール例:

Slip The Clutch, Allemande Left

Slip The Clutch, Skip One, Left Allemande

Slip The Clutch, Skip One, Skip Another, Skip Another, Turn Partner Left, Four Ladies Chain

(From a Wrong Way Thar) Slip The Clutch, Pass Two, Right And Left Grand

動作:

後退していたダンサーは止まって、外にいるダンサーは隣の中にいるダンサーと取っていた手を離す。次に全員がスクエアセットの中心の周りを回るように次のダンサーへと前進する。

一人またはそれ以上のダンサーをスキップ(またはパス)する指示があった場合は、皆がサークル上を前進して、指示された数のダンサーを通り過ぎる。

動作を終る隊形: Thar(ザー)、Wrong Way Thar (ロング ウエイ ザー)。

タイミング: 2拍。

スタイリング:

進行方向は変わるが、中心にいるダンサーは外側の人と取っていた手を自然に離し、この手をすぐに次のコールに合わせて、前から来る人の手を取るように用意すれば、動作の切り替えが楽に行える。 Slip The Clutch (スリップ ザ クラッチ)後の手の取り方は次のコールに従う。

中央にいる人はスターを保持しているのが一般的である。

注釈:

このコールには向かい合ったカプルの規則は適用されない。

7. Shoot the Star (シュート ザ スター) / Shoot the Star Full Around (シュート ザ スター フルアラウンド)

動作を始める隊形: 動いているThar(ザー)、動いているWrong Way Thar (ロング ウエイ ザー)。

コール例: (最初の5例は男性が中心のThar(ザー)から始める)。

Shoot The Star; Right And Left Grand

Shoot The Star To Another Thar, Go Forward 2, Men Swing In To A Backup Star

Shoot The Star Go All The Way Around, Give Corner Right, Men Swing In To A Wrong Way Thar

Shoot The Star A Full Turn, Go Backwards 3, Right, Left, Right, Boys Wheel In To A Wrong Way Thar

Shoot The Star A Full Turn, This Way Go Forward 3, Right, Left, Right; Allemande Left (From a Wrong Way Thar) Shoot The Star, Go Forward 2, With A Left And Right, To Another Wrong Way Thar

動作:

中心のダンサーはそれぞれ中心ダンサーとしてスターを作っている内側の手を下して、隣接する外側のダンサーとArm Turn 1/2(アーム ターン ハーフ)、歩を進めて通り過ぎる。 Full Around (フルアラウンド)の指示があれば、Arm Turn(アーム ターン)は全周(360度)である。

動作を終る隊形: Right and Left Grand Circle(ライト アンド レフト グランド サークル)

タイミング: 4拍。フル アラウンド:6拍。

スタイリング:

Arm Turn(アーム ターン)のとき腕は前腕を取る。別の手は自然なダンス位置に取り、次の

コールに備える。女性はArm Turn(アーム ターン)をしている間、引き続きスカートを使う。

注釈:

このコールには向かい合ったカプルの規則は適用されない。

Shoot the Star (シュート ザ スター)の後、ダンサーに対し引っ張って通り過ぎるPull By(プル バイ)を一つまたはそれ以上進むように指示するコーラーも時々いる。例えば上記コール例の2番目であるが、一歩進んで(Step Thru)、右手を引っ張って通り過ぎ(Right Pull By)、更に進んで左前腕をとり、Left Arm Turn 1/2(レフト アーム ターン ハーフ)を行う。

コーラーはダンサーに対して前進する数をいくつでも指示できる。最後の手を除き、それぞれの手は引っ張って通り過ぎるPull By(プル バイ)で、最後の手はThar(ザー)またはWrong Way Thar (ロング ウエイ ザー)に入る最初のArm Turn(アーム ターン)を始める手である。

あるコーラーは“前進(Forward)”を“ライト アンド レフト グランド(Right and Left Grand)方向を意図して使い、“後退(BackwardまたはBack、Backwards)”をその逆に使うが、また別のコーラーは“前進(Forward)”を現在ダンサーが向いている方向であると意図して使い、後退(BackwardまたはBack、Backwards)”という言葉を使わない。どちらも容認できるが、コーラーはダンサーを混乱させないように注意しなければならない。上記コール例の4番目と5番目を参照。

Shoot the Star (シュート ザ スター)をCast Off 3/4(キャースト オフ スリークォーターズ)と同じように使い、Alamo Ring(アラモ リング)を作るコーラーもいる。例えば“Shoot the Star 3/4 To An Alamo Ring (シュート ザ スター スリークォーターズ トゥ アン アラモ リング)”や単に”Shoot the Star To An Alamo Ring(シュート ザ スター トゥ アン アラモ リング)”のように。Shoot the Star (シュート ザ スター)もまた次の動作に移行できる。例えば、“Shoot the Star (シュート ザ スター)、4 Ladies Chain(フォー レイディーズ チェイン)である。

8. Single Hinge (シングル ヒンジ)/Couples Hinge (カプルズ ヒンジ)

Hinge (ヒンジ)は隣のダンサーとの Trade(トレイド)の半分である。以下にメインストリームでの二つの Hinge(ヒンジ)を示す。

8.a. Single Hinge(シングル ヒンジ)

動作を始める隊形: ミニ ウェイブのみ。

コール例:

Single Hinge

Hinge

Couples Circulate; Centers Hinge

Heads Pass The Ocean; Extend; Split Circulate; Girls Cast Off 3/4; Boys Hinge

動作:

Trade(トレイド)の半分を行う。

動作を終わる隊形：ミニ ウェイブ。

タイミング：2 拍。

スタイリング：

カプルはお互いに取り合った手を離さない。

注釈：

「Hinge 1/4(ヒンジ 1/4)という使い方は不適切だ。Hinge(ヒンジ)は Touch 1/4(タッチ 1/4)のように分割しては使えないから。

Partner Hinge(パートナー ヒンジ)の「(動作を始める隊形1:Couple only(カプルからのみ)の制限)」は、1988 年に削除されている。

コマンドとしての Hinge(ヒンジ)は、'Single Hinge(シングル ヒンジ) 'や' Partner Hinge(パートナー ヒンジ) 'の代わりに使えるが、後者はメインストリームでは、不適切な使い方だ。

8.b. Couples Hinge (カプルズ ヒンジ)

動作を始める隊形：ワン フェイスト ラインまたはトゥー フェイスト ラインのみ。

コール例：Couples Hinge

動作：Couples Trade(カプルトレード)の半分。

動作を終わる隊形：トゥー フェイスト ライン。

タイミング：2 拍。

スタイリング：各々のカプルは取り合った手を離さない。

注釈：Grand One Faced Line(グランド ワン フェイスト ライン)からの、Couples Hinge(カプルズ ヒンジ)は、右手のトゥー フェイスト ラインで終わる、(お互いきれいに並んだトゥー フェイスト ラインでズレはない。)

9. Centers In(センタース イン)

動作を始める隊形：

Completed Double Pass Thru(ダブル パス スルーを終了した隊形)、Eight Chain Thru(エイト チェイン スルー)。もっと一般的に言えば、スクエアセットの中心に背を向けたカプル、即ちセンターいるダンサーが外にいるダンサーを直接見ている隊形。

コール例：

Centers In

Put Centers In

動作:

顔の向いている方向は変えずに、外にいるダンサーは互いに一步はなれて間に空間を作り、中にいたダンサーがこの空間に前進して動作を終わる。

動作を終わる隊形:

それぞれに異なる。 Completed Double Pass Thru(ダブル パス スルーを終了した隊形)からは外向きのライン。 Eight Chain Thru(エイト チェイン スルー)からは外が向かい合っている一部が逆になったライン。

タイミング: 2拍。

スタイリング:

中にいるダンサーが前進して外側のダンサーの間に入るとき、その場に適した手のとり方をする(同方向を向く場合はカプルの手のとり方、互いに異なる方向を向く場合はオーシャンウェイブのスタイリング)。

注釈:

Centers In(センターズ イン)を行うと中心に余分な空間が生ずるが、次のコールにより、またはsquare breathing(スクエア ブリージング)でこの空間は縮小されるか消滅する(第4部付加細目:動作:square breathing(スクエアの拡大と縮小を参照)。

10. Cast Off 3/4(キャスト オフ スリー クォーターズ)

動作を始める隊形: ミニウェイブ、すべてのライン。

コール例:

Cast Off 3/4

Pass The Ocean; Cast Off 3/4

Couples Circulate; Tag The Line; Put Centers In; Cast Off 3/4 -- Boys Push

Center 4, Wheel And Deal; Outsides Cast Off 3/4 (from a Tidal Line)

Veer Left; Centers Trade; Cast Off 3/4

動作:

ミニウェイブからは3/4回転する。 すべてのラインからは、そのラインの半分がそれぞれ共に動き、ミニウェイブは3/4回転し、カプルの場合は一組となってラインの中心から遠い方へ円の3/4(270度)を回転する。

動作を終わる隊形:

ミニウェイブからはミニウェイブ。 ワンフェイスラインまたはトウフェイスラインからは向かい合ったカプル。 すべてのラインからはすべてのボックス(中心点は変わらず同じ)。

タイミング: 6拍。

スタイリング:

ダンサーは動作中パートナーとの手のとり方は変えない。 Completed Double Pass Thru (ダブル パス スルーを終了した隊形)からCenters In (センターズ イン)、Cast Off 3/4 (キャスト オフ スリー クォーターズ)の組み合わせが肘をかけてよく踊られている。 Centers In (センターズ イン)の後は必ずしもCast Off 3/4 (キャスト オフ スリー クォーターズ)ではないから、このスタイリングは止める。

注釈:

スクエアセットの外側にいるカプル (例えば、Couples Circulate 1 1/2-カプルズ サーキュレイト ワンス アンド ア ハーフ)にCast Off 3/4 (キャスト オフ スリー クォーターズ)をコールすることは可能。 この場合、外側にいるカプルは他の半分がスクエアセットの中側にいると仮定してコールに従う。

Cast Off 3/4 (キャスト オフ スリー クォーターズ)の後にSweep a Quarter (スイープ ア クォーター)を行うのは適切ではない。

カプルで行う場合、回転をする中心点に問題が生じてしまう。 今までは、外のダンサーが軸となっていて、中にいるダンサーはその周りの円周上を、まさに庭木戸を押し開けるように3/4回するように言われていた。 場合によっては (例えば、Two-Faced Line-トゥ フェイスト ラインから)、これが大きな問題となった。 なぜ動作が直接向かい合ったカプルで終わるのか説明がなかったからである。 現時点での定義では回転の中心点については重要視していない。 ダンサーが正しい方向に回転し、正しい隊形で動作を終わっている限り、ダンサーは適切に動作を行っているとしている。 Tidal Line (タイダル ライン)またはTidal Two-Faced Line (タイダル トゥ フェイスト ライン)からは各それぞれの側で動いてEight Chain Thru (エイト チェイン スルー)隊形で終わるのがCast Off 3/4 (キャスト オフ スリー クォーターズ)の適切な動作である。 Tidal Line (タイダル ライン)だけから、コーラーが各それぞれの側が一組として動いてほしいならば、向かい合ったラインで動作を終わる。 "Line of 8, Bend The Line (ライン オブ エイト、ベンド ザ ライン) (#20.b)"に同じく"Line of 8, Cast Off 3/4 (ライン オブ エイト、キャスト オフ スリー クォーターズ)"とコールしても良いが、このような動作 (または6人のラインからの動作) はほとんど使われていない。

3/4以外の分数で動くCast Off (キャスト オフ)については第4部付加細目: Commands (指示): Extensions like Reverse Wheel Around (リバース ウHEEL アラウンドのような応用)を参照。

11. Spin the Top (スピン ザ トップ)

動作を始める隊形: Ocean Wave (オーシャン ウェーブ)

コール例:

Spin The Top

Spin The Top; Spin It Again (i.e., go twice)

Spin Your Top

Spin Your Top, Do A Right and Left Thru

動作:

それぞれ外側にいる人とその隣りにいる内側の人が1/2回転する。新たに内側にはいった

人が更に3/4回転し、その間に外側になった人がそれぞれ円周上を1/4進んで、オーシャンウェイブの外側となって動作を終わる。

動作を終わる隊形： 始めた位置から直角に移動したオーシャン ウェイブ。

タイミング： 8拍。

スタイリング： Swing Thru (スウィング スルー)に同じ。

注釈：向かい合ったカプルの規則が適用される。

“Spin The Top, Right and Left Thru”の組み合わせは、ダンサーがハンズアップである Spin the Top (スピン ザ トップ)から、Right and Left Thru (ライト アンド レフト スルー)を行うために手を調節する必要があることを踏まえてコールしなければならない。

3人のオーシャンウェイブから Spin the Top (スピン ザ トップ)を行う場合は、コーラーが誰から始めるのか指定しなければならない(例えば、Right Spin The Top, Starting With The Right Spin The Top, Boys Start Spin The Top)。指示された人が1/2回転する。指示されなかったダンサーと中心のダンサーは更に3/4回り、その間に他の人がそれぞれ隊形の円周上を1/4進んで、3人のオーシャンウェイブの外側となる。この使い方は一般的ではない。

左手のオーシャンウェイブからは“Left Spin The Top (レフト スピン ザ トップ)”のコールを行うことが可能で、“Left (レフト)”はダンサーを助けるために付け足されている(第4部：付加細目：付け足し語句を参照)。

右手のオーシャンウェイブから“Left Spin The Top (レフト スピン ザ トップ)”および“Centers Start, Spin The Top (センタース スタート スピン ザ トップ)”は適切ではない。

12. Walk And Dodge (ウォーク アンド ドッジ)

動作を始める隊形： ボックス サーキュレイト隊形、向かい合ったカプル。

コール例：

Walk And Dodge

Right and Left Thru, Girls Walk, Boys Dodge (通常のカプルから)。

動作： あるダンサーは前進(Walk)して目の前にいるダンサーの位置を占める。他のダンサーは顔の向きを変えずに横にずれて(Dodge)隣のスポットに動く。

ボックス サーキュレイト隊形からは、トレイラーがウォーク(Walk)、リーダーがドッジ(Dodge)。

向かい合ったカプルからは、どちらのダンサーがウォーク(Walk)をし、どのダンサーがドッジ(Dodge)をするのか、コーラーが指示しなければならない。

動作を終わる隊形：背中合わせのカプル、ボックス サーキュレイト隊形。

タイミング：4拍。

スタイリング：

コールが終わった時、カプルかミニウエイブの手の取り方で、腕は自然なダンス位置。

注釈：

ウォーク アンド ドッジ(Walk And Dodge)は、4人のダンサーに対するコールである。カラムからは、ダンサーは4人の二つのグループに分かれて動作を行いトレード バイ隊形(Trade By Formation)で終わる。

ギミックとして、コーラーはあるダンサーの前に歩く(Walking)代わりに、後退させる指示もできる。例えば Heads Square Thru, Touch 1/4, Walk And Dodge, Girls Back Up and Boys Dodge のように。また外向きのラインから Centers Walk , Ends Dodge のようなコマンドもギミックとして用いられる。これは、ダンサーが元の4人のグループを離れる使い方であるから。“付加細目： Commands (指示): Gimmicks(特異な動き)”の項を参照。

6人や8人のダンサーと一緒に動く拡張した適用(Extended Applications)もある。

例えば、 Sides Pass the Ocean、Sides Swing Thru, All Boys Run の後の、 Center 6 Walk And Dodge も Outside 6 Walk And Dodge も出来る。どちらの例も4人のダンサーがウォーク(Walk)をし、2人のダンサーがドッジ(Dodge)をする。また 6 人のダンサーがウォーク(Walk)をし、2人のダンサーがドッジ(Dodge)をすることも出来る。例えば、Heads Touch 1/4, Side Girls Dodge and Others Walk のような。

向かい合ったカプルや背中合わせのカプルからの ウォーク アンド ドッジ(Walk And Dodge) コマンドは、ダンサーが彼らのする動作の部分(part)を予期できなければ、不適切な使い方となる。(“付加細目： Commands(指示): Do Your Part(自分の動作すべき部分)”を参照)。

13. Slide Thru (スライド スルー)

動作を始める隊形：向かい合ったダンサー。

コール例：

Slide Thru

動作：

ひとつの滑らかな動きで Pass Thru(パス スルー)し、男性が右を向き、女性が左を向く。

動作を終わる隊形：男性同士で動作する場合は右手のミニウエイブ、女性二人の場合は左手のミニウエイブ。その他の場合はカプル。

タイミング：4拍。

スタイリング：

腕は自然な手の位置に取り、女性のスカートワークは自由。手は次のコールに備えて適当な位置(カプルの手のとり方またはハンズアップ)にとる。

Pass Thru(パス スルー)した後、滑らかに回転し、横への動きまたは縦への動きに移行する。

注釈： オーシャン ウェイブの規則が適用される。

14. Fold (フォールド) / Cross Fold (クロス フォールド)

事例1: Fold(フォールド)

動作を始める隊形： カプル。ミニウェイブ。

コール例：

Boys Fold

Ends Fold (一般的なラインから)

Ladies Fold

Leaders Fold (オーシャンウェイブから)

動作：

指示されたダンサー(アクティブ)は前進し、半円弧上を、隣にいるダンサー(インアクティブ)の方向に歩き、隣のダンサーの方を向いて動作を終わる。

指示されなかったダンサーはインアクティブで動かない。

動作を終わる隊形： 向かい合ったダンサー。 タンデム。

タイミング： 2拍。

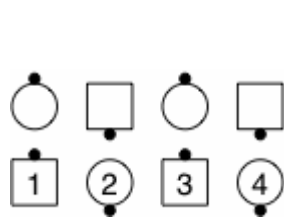
スタイリング： なし。

注釈：“Fold”は、メインストリームのもとではあまり一般的でない隊形(訳者注:Formation Pictogram に規定されていない隊形を指す。)も造ることができる。このような状況下で、コーラーは、一般的に正常な隊形に揃えるため、暗黙のアジャストメントを用いる。

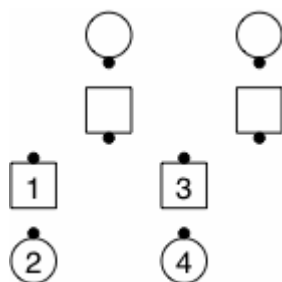
例えば、Heads Square Thru 4, Touch 1/4, Girls Fold, Double Pass Thru; では

- 1) Girls Fold で直接向かい合っていないタンデムが作られる
- 2) Double Pass Thru で、暗黙のうちにダンサーがこのコールの動作を始める隊形(向かい合ったタンデム)になるよう伝えられる。
- 3) Double Pass Thru は、タンデムは向かい合っていたかのように踊られ、正常に踊り終わる。

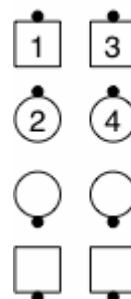
この種の暗黙のアジャストメントは、メインストリームでは普通に受け入れられている。特に Fold や Cross Fold の後に続けて、が、しかし他のダンス プログラムでは論争を呼ぶ。



Before Girls Fold



After Girls Fold



After Double Pass Thru

1x8 隊形からでは、コーラーはセンターとエンズを明確にしなければならない。例えば“Each Side, Centers Fold”とか “In Each Wave of 4, Ends Fold” あるいは “Girls Fold”のように。“総記:Way of Naming Dancers(ダンサーの呼び方):Centers/Ends(センタースとエンズ)”の項を参照。

指示されなかった人の顔の向きは変わらない。例えば、上手く組み立てられた向かい合ったラインから、“Centers Star Thru; Ends Pass Thru and Fold, You’re Home” も。(訳者注: Facing Zero Line から、ということではない。Out-Order の Half Sashayed Corner Line から、顔の向きを正しく踊れば You’re Home とすることも、出来るといっているだけ。)

“Everyone Fold” あるいは “Everybody Fold to Face” は特異な動き(ギミック)だ。(「付加項目: Commands(指示): Gimmicks(特異な動き)」を参照。)というのは、Fold をする人は、インアクティブ ダンサーと一緒に動いていない。これを使うコーラーは、明らかに向かい合ったダンサー (Facing Dancers)で終わろうとしている。(たとえ「動作」が、始めに隣にいたダンサーの位置で向かい合うようダンサーに求めている、向かい合っていないが。)このギミックは、カプルからには使えない。

事例 2: Cross Fold (クロス フォールド)

動作を始める隊形: 一般的なライン。

コール例:

Girls Cross Fold

Ends Cross Fold

Each Side, Ends Cross Fold (タイダルウェイブから)

動作:

指示されたダンサー(アクティブ)は前進し、半円弧上を、お互いのラインのセンターと一つのダンサーポジションを通り過ぎ、次のダンサー(インアクティブ)の方を向いて動作を終わる。指示をされなかったダンサーはインアクティブで動かない。

動作を終わる隊形: 注釈欄を参照。

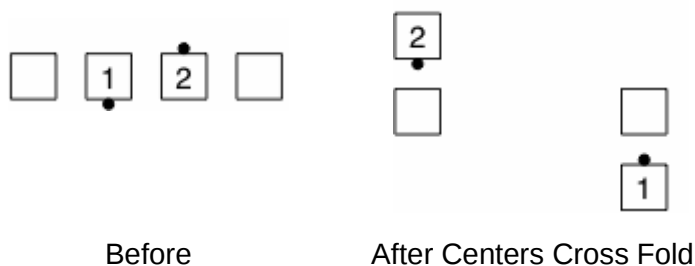
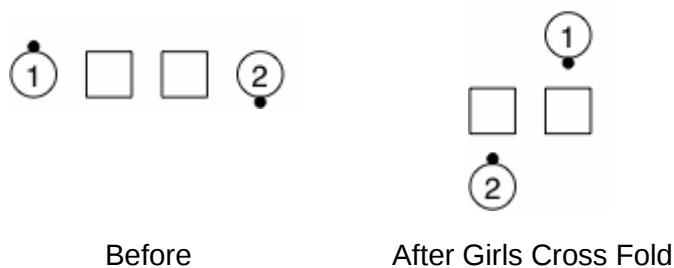
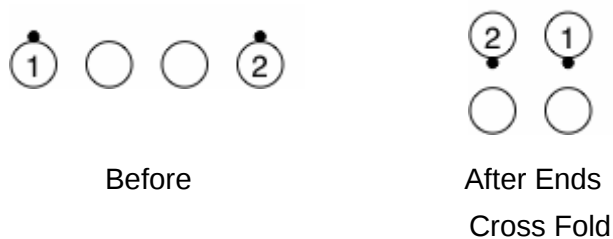
タイミング: 4 拍。

スタイリング： なし。

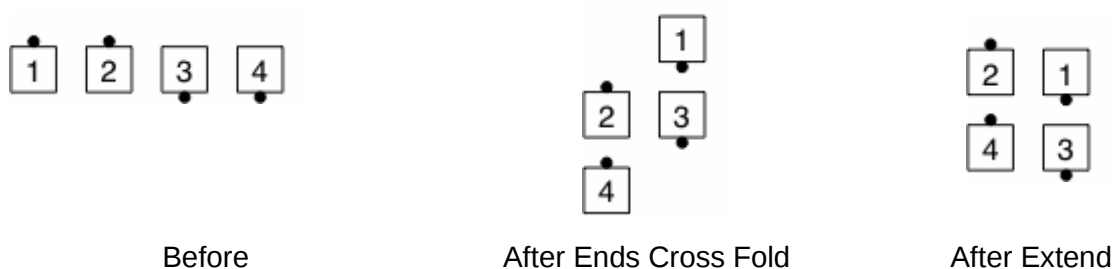
注釈：

“Ends Cross Fold” のとき、エンズ同士が同じ方向を向いているなら、お互い右肩ですれ違う。“Centers Cross Fold” のとき、センターズ同士が同じ方向を向いているときは、Half Sashay をしながら オリジナルのエンズの位置に向かい合うように Fold の動作を溶け合わせる。

“Cross Fold”の動作を終わる隊形は、どの(センターかエンズか)ダンサーが”Cross Fold”をするかと、オリジナルの顔の向きに依存する。 例えば“



“動作を終わる隊形”は、一般的な隊形ではない。コーラーは普通、以下の例のように、次のあるいは二つ目のコールで、隊形を整える。(訳者注： Fold あるいは Cross Fold の動作が終わったときに、自動的にノーマライズ(アジャスト)はせず、つぎに続く動作に任せる。)



コーラーは、“暗黙のアジャストメント(「Fold」の最初のコメントを参照。)”や“Right and Left Grand, Swing and Promenade”あるいは“Allemande Left”などのコールを用いて、隊形を標準化する

1x8隊形からは、コーラーは、ダンサーが各々サイドの4人のラインなのか(例えば、Each Side, Ends Cross Fold),あるいは4人のセンターライン(例えば、Center Four, Centers Cross Run)なのかを明確にしなければならない。

“Fold”では、動作の指示をされなかったダンサーの顔の向きは、このコールの影響を受けない。

“Everyone Fold”(上にあったコメントを参照)のように,”Everyone Cross Fold”はギミックであるが、あまり使われない。

15. Dixie Style to an Ocean Wave (ディキシースタイル トゥー アン オーシャン ウェイブ)

動作を始める隊形: 向かい合っているカプルまたは向かい合っているタンデム。

コール例:

Dixie Style to a Wave

Dixie Style to an Ocean Wave

Put the Ladies in the Lead, Dixie Style to an Ocean Wave (from normal Facing Couples)

On a Double Track, Dixie Style (from a Double Pass Thru)

Boys Lead, Dixie Style to a Wave (from sashayed Facing Couples)

動作:

向かい合っているカプルからの場合: ハーフサシェの半分(Half of a Half Sashay)(例えば、元の右側にいたダンサーがタンデムの前になるまで、お互い内側にスライドを行うように。)を行う。そしてセンターダンサーは右手を引っ張って通り過ぎる; 皆でレフト タッチ ワン クォーター(Left Touch 1/4)を行う。

向かい合っているタンデムの場合: センターダンサーは右手を引っ張って通り過ぎる; 皆でレフト タッチ ワン クォーター(Left Touch 1/4)を行う。

終わりの隊形: 左手のオーシャンウェイブ。

タイミング: 6 拍。

スタイリング:

向かい合ったカプルからの場合: 左側のダンサーは十分後ろに下がってから右に一步。この動きにより右手のダンサーが右手をとって引っ張って通り抜けるために開けた空間で、レフトタッチワンクォーター(Left Touch 1/4)の用意をする。

向かい合ったタンデムの場合: 後ろの人(トレイラー)は少し右に動いて、レフトタッチワンクォーター(Left Touch 1/4)の準備をする。

注釈: このコールには、オーシャンウェイブルールが適用される。

(シングル1/4タッグ隊形から)

ダブル パス スルー隊形から、単純に“Dixie Style to an Ocean Wave”とコールするのは、次のようなあいまいさがあるので混乱を招きやすい。4人のセンターダンサーは向かい合ったカプルとしての動作を始めることも、各々の向かい合ったタンデムとしても動作を始めることもできる。コーラーは次のような補助語を用いて明確にすべきだ。

* Center 4, Dixie Style to a Wave とか

* On a Double Track (または“Single File” もしくは“Each Column 4”), Dixie Style to a Wave で。

“Double Track”(ダブルトラック)は、横に並んだ向かい合ったタンデムを表現するのに用いられる。コーラーによっては、向かい合ったタンデムを端から端に繋いだ状態(end-to-end)(言い換えれば 向かい合ったタンデムが各々の側にある 1x8 隊形)からは、この用語を避けている。

同様に「付加細目： Starting Formation(動作を始める隊形)」を参照。

普通のスクエアセットから、“All 4 Ladies Lead, Dixie Style to a Wave” は拡張された使い方である。(そしてこれは “Four Ladies Chain”の後にでてきそうだ。) 右手を引っ張って通り抜ける動作(Right Pull By)は、四人のレディーズチェイン(Four Ladies Chain)と同じように、右手のスター半分(Right Handed Star 1/2)に置き換えられる。

レフト タッチ ワン クォーター(Left Touch 1/4)の後、男性がセンターのザー(Thar)隊形で終わる。コーラーはこの使い方には、ワークショップをするべきである。

動作を始める隊形： 向かい合っているカプルまたは前後の位置で向かい合っている隊形。

16. Spin Chain Thru (スピン チェイン スルー)

動作を始める隊形： 平行したウェイブ。

コール例： Spin Chain Thru

動作：

それぞれ外側にいる人とその隣りにいる内側の人が1/2回転する。新たに内側にはいった人が更に3/4回転して、新しくセンターに(他の組とセットを横切った)オーシャンウェイブを作る。このウェイブの中心二人は1/2回転(180度)回る。この中心にあるオーシャンウェイブの外側にいる人とその隣りにいる内側の人が3/4回転(270度)回る。

動作を終わる隊形： 平行したウェイブ

タイミング： 動作を終わった後のエンド 3拍。

動作を終わった後のセンター 16拍。

スタイリング：

Swing Thru (スウィング スルー)と同じハンズアップ。 エンドに出た人はその場所を動かさないで、センターダンサーが動作を終わるのを待つ。

注釈： このコールには、向かい合ったカプルの規則が適用される。

新たにセンターに入ったダンサーが動作を終えるまでの間に、エンドになったダンサーに他の動作を指示

してもよい。(例: Spin Chain Thru, Ends Circulate Twice)

Spin Chain Thru は、“All Turn 1/2, Those who meet Turn 3/4, Those who meet Turn 1/2, Those who meet Turn 3/4”とも踊られる。これを考えに入れて、コーラーによっては、Spin Chain Thru をギミック(特異な動き)としてアラモ リングから行うこともある。

(付加細目: Commands(指示): Gimmicks(特異な動き) を参照。)

このコールをギミックとして使うとき、コーラーは、どのダンサー ペアーから動作を始めるか指示しなければならない。(例: Start with the Right and Spin Chain Thru)

17. Tag the Line Family (タッグ ザ ライン ファミリー)

17.a. Tag the Line (タッグ ザ ライン) (In/Out/Left/Right) (イン/アウト/レフト/ライト)

動作を始める: 一般的なライン

コール例:

Tag the Line

Tag the Line All The Way

Tag the Line, Face Right

Tag the Line, Left

Tag the Line, Face In

動作:

各々のダンサーは、その場でラインの中央(言い換えれば、そのラインの遠い方の端)を向くように 90 度向きを変え、右肩をすれ違わせながら前進し、ラインの残り半分のダンサーとすれ違いながら、最後のダンサーとのすれ違いが終わるまで進む。もし顔の向きを指示されたときは、そこで、指示された方向へ 90 度向きを変える。

動作を終わる隊形:

Tag the Line は、背中合わせのタンデムで終わる。

方向が指示されたならば、終わりの隊形はその指示に従う。(例えば”Tag the Line, Face Right”ならば右手を取り合ったトゥ フェイスト ライン(Two-Faced Line)で終わる。

タイミング: 6 拍。

スタイリング:

腕は自然な手の位置に置く。手は次のコールに備えて妥当な位置に保つ。もしセンターのダンサーが右手をとった位置から始めるときは、少し前進しながらラインの中央を向くようにすれば、流れるような動作が可能となる。

注釈:

Tag the Line は 4 人のダンサーに対するコールである。8 人の一般的なラインからのコールでは、"Each Side" (または "Each Four") の言い回しは手助けになるが、必ずしも必要ではない。

"Tag the Line" の後の、方向を示す "In" (または "Out") は、セットの中央へのあるいは中央から回転方向を意味している。一般的なラインから、"Tag the line, Face In (または Out)" では向かい合ったライン (または背中合わせのライン) で終わる。

指示される方向はダンサー皆が同一である必要はない。(例えば、Tag the Line, Boys Face Left, Girls Face Right. のように。)

Tag the Line の拡張した適用 (extended application) では、6 人もしくは 8 人からなる一般的なラインからも始められる。コーラーは、明確にラインを指示しなければならない。例えば、"Line of Eight, Tag the Line" のように。

二人のダンサーからなるラインに対しての適用はメインストリームでは、不適當である。なぜなら他のレベルのプログラムで、異なる名前が付けられているからである。

17.b. Fraction (1/4, 1/2, 3/4) Tag (フラクション (ワン クォーター、ハーフ、スリー クォーターズ) タッグ)

動作を始める隊形：一般的なライン

コール例：

Half Tag

3/4 Tag the Line

Tag the Line 3/4

1/4 Tag

動作：

各々のダンサーはその場で、ラインの中央 (言い換えれば、そのラインの遠い方の端) を向くように、90 度向きを変え、他の半分のラインのダンサーと右肩で通り過ぎるように、前に歩き始める。ダンサーは 1/4、1/2 と 3/4、それぞれ、右手のシングル 1/4 タッグ (Right-Handed Single 1/4 Tag), 右手のボックス サーキュレイト (Right-Handed Box Circulate), 右手をとった 3/4 タッグ隊形 (Right-Handed 3/4 Tag Formation) で止まる。

動作を終わる隊形：

1/4 タッグ：右手をとったシングル 1/4 タッグ。

1/2 タッグ：右手のボックス サーキュレイト。

3/4 タッグ：右手をとったシングル 3/4 タッグ。

タイミング：

1/4 タッグ：3 拍。

1/2 タッグ：4 拍。

3/4 タグ： 5拍。

スタイリング：

腕は自然な手の位置に置く。手は次のコールに備えて妥当な位置に保つ。もしセンターのダンサーが右手をとった位置から始めるときは、少し前進しながらラインの中央を向くようにすれば、流れるような動作が可能となる。

注釈：

Tag the Line は四人のダンサーに対するコールである。8人の一般的なラインからは、‘Each Side’(または‘Each Four’)という呼称が手助けになるが、必ずしも必要ではない。

一般的なラインから、3/4 (または 1/4) Tag は、右手を取り合った 3/4 (または 1/4) タグ隊形 (Right-Handed 3/4 (または 1/4) Tag formation) で終わる。というのは外側のダンサーは近づいてカプルに成るため。

「付加細目： Dance Action(動作): Square Breathing(スクエアの拡大と縮小)」を参照。

しばしばダンサーは、全てのコールが伝えられるより前に動き出すので、分数部分はコールの始めに持ってくる。“Tag the Line, One-Quarter”では、コールに3拍しかないので非常にやる気をなくさせてしまう。

コーラーは、しばしば、“One-Half”(または“One-Quarter”)の代わりに、“Half”(または“Quarter”)を用いて分数部分を省略する。強調のために分数部分全体を使ったり、“One-Quarter Tag the Line”のように“the Line”をつけくわえたりもする。

18. Scoot Back (スクート バック)

動作を始める隊形： ボックス サーキュレイト隊形、1/4 タグ隊形、シングル 1/4 タグ隊形

コール例：

Scoot Back

動作：

ボックス サーキュレイト隊形から： トレイラー (Trailers) は、エクステンド (Extend), アーム ターン 1/2 (Arm Turn 1/2)、エクステンド (Extend) を、リーダー (Leader) は、ボックス サーキュレイト。

1/4 タグ隊形、あるいはシングル 1/4 タグ隊形から： エクステンド (Extend), アーム ターン 1/2、エクステンド (Extend)。

動作を終わる隊形： ボックス サーキュレイト隊形、3/4 タグ隊形、シングル 3/4 タグ隊形。

タイミング： 6拍。

スタイリング：アーム ターン 1/2をする人は、前腕(Forearm handhold)をとりあう。

ダンサーは、空いた手はそのままに。というのは、その手は、動作を始める隊形、アーム ターン、動作を終わる隊形でも空いたままだ。(トレイラーではボックス サーキュレイト隊形とシングル 1/4 タッグ隊形のセンターズで)。

注釈：

左手を取り合った隊形からは、アーム ターンは左手で行う。動作を終わる隊形も左手を取り合った隊形になる。

コーラーは時に、補助語を用いる。例えば“Scoot Back, use the left”のように。

コーラーによっては、どのダンサーがアーム ターンをするのか、補助語を付け加える。例えば、Heads Square Thru, Touch 1/4 の後に“Scoot Back, Boys Go”。この場合、“Boys Scoot Back”は、不適切なコールであろう。というのは、この動作の指示は、男性に対してだけ行われる。オーシャン ウェーブで、男性がセンターにいるときには、妥当なコールであろうが。

スクート バックは4人のダンサーに対するコールである。カラム隊形では、ダンサーは二つのボックス サーキュレイト隊形の、それぞれの側で動作をする。

ボックス サーキュレイト隊形のトレイラーの動きを表す他の方法： まっすぐ前進し、お互いが隣り合ったら、アーム ターン 1/2をし、まっすぐ前進し、リーダーによって空いた場所で終わる。

19. Recycle (リサイクル) (ウェーブからのみ)

動作を始める隊形： オーシャンウェーブのみ。

コール例： Recycle

動作：

ウェーブの外側の人が Cross Fold (クロス フォールド)を行う。その間に隣りにいたセンターの人はその外側の人の後ろに Fold(フォールド)をして入り、そのままついて行き、横並びとなって、2組が向かい合ったカプル隊形となって、動作を終わる。

動作を終わる隊形： 向かい合ったカプル

タイミング： 4拍。

スタイリング：

各々外側にいる人とその隣りにいた内側の人が、動作を始めるとき、取り合っていたミニウェーブの手を放す。2人がほぼ同じ方向を向くときに、スムーズにカプルの手の取り方をする。

注釈:

向かい合ったカプルの規則は適用されない。

向かい合ったカプル隊形からの「Recycle(リサイクル)」のコールは、メインストリーム プログラムの一部ではなく、異なった「動作の定義」になる。

これを教えるときに、センターダンサーに、“Fold, follow, face”と動作の声をかけさせたり、「センターダンサーがほぼ一回転をして、始めにいた場所から少し下がった位置で、ついて行ったダンサーの横に並ぶ」という説明も助けになるかもしれない。

付加細目

この部はまだ見直しを行い、承認を受ける必要がある。

Starting Formations (動作を始める隊形)

各定義にはコールされた動作を始めることができる隊形を最少単位の基本的な隊形で示した。従ってこの動作は他の何ヶ所かで行うことも可能である。例えば、Dosado(ドウサドウ)を行うに必要な最少人数は2人であるが、4人のラインで、向かい合ったラインとこの動作をする時は四ヶ所で行うことが可能で、この場合基本的な隊形が四ヶ所に存在することになる。

Commands (指示)

Extra words (付け足し語句)

Plain English (平易な英語)

Extensions like Reverse Wheel Around (リバース ウィール アラウンドのような応用)

Fractions (分数)

Gimmicks (特異な動き)

Bending vs. breaking the definition (定義の歪曲と破棄)

Do Your Part (自分の動作すべき部分)

Centers Zoom (センターズ ズーム)

Extend and Tag The Line (エクステンドとタッグ ザ ライン)

Dance Action (動作)

Defining Calls with Arm Turns (アームターンの動作定義)

Definitional Precision (定義詳細)

Blending one call into another (動作の別のコールとの組み合わせ)

Who is active (アクティブとなる人)

What does naming a dancer mean? (ダンサーを名付ける意味)

Square Breathing (スクエアの拡大と縮小)

Timing (タイミング)

タイミング委員会がそれぞれの動作を行うのに何拍を必要とするか決定した。ダンサーは音楽の各拍子にあわせて歩を進めるべきなので、音楽の各拍子数と歩数は同等のものと考えることが出来る。

ひとつの音楽は一連のばらばらの拍子を共に配列したものといってもまだ言い足りない。もっと適切に言えば、音楽は区切られた部分により構成され、当然のことながらこの区切られた部分が更に小さい部分に分割されている。たいていのダンス音楽では64拍の楽句は二つの32拍楽句により構成され、この32拍の楽句は二つの16拍楽句、この16拍の楽句は二つの8拍楽句により構成される。

以前の伝統的なスクエアやコントラダンスでは、コールの流れがこれら楽句の度合いにあわせるように、ダンスの組み立て構成が行わる。一般的には、ダンサーは拍子に合わせて動作を始め、8拍を使って動作を行う。それぞれのダンスではカプルが次のカプルへ進むにつれて一連の動作を連続して行う。この一連の動作を前もって知ることにより、また、何回も繰り返すことにより、ダンサーはコールを遂行したり、コール間をうまく処理して音楽の楽句にあわせることが出来るようになる。Dosado(ドーサードー)、Right and Left Thru(ライト アンド レフト スルー)、Two Ladies Chain(トゥ レイディーズ チェイン)、Up To The Middle And Back(アップ トウ ザ ミドル アンド バック)は楽句の1拍目から始めて8歩の踊りである。8拍を使わない動作はごく少数で、例えば、4拍の動作はPass Thru(パス スルー)とBalance(バランス)、または12拍のSwing(スイング)である。

現在のスクエアダンスでは動作の種類も大きく増え、8拍を使わない動作も多い。たとえ一連のコールを前もって知らなくとも、すべるような連続した歩調で踊り、音楽の一拍子で一歩進み、ひとつの動作から次の動作へは継ぎ目なく移行する。伝統的には8拍を使うある動作(例えば、Right and Left Thruーライト アンド レフト スルー)は通常6拍で踊られている。

各動作のタイミングはその動作を行うための理想的な歩数すなわち音楽の拍数である。主にタイミングは、ダンサーがコールを踊れるように、コーラーがダンサーに対して正しい拍数を与えるために提示されている。タイミングはまた64呼間のシンギングコール構成のためにも利用できる。しかし、コーラーとしては64拍まで加算し一連のコールを作るだけでは足りない、より以上のものがあることを忘れてはならない。コールからコールへの移行部分、スクエアの拡大縮小等があるからである。タイミング数はシンギングコールの組み立てにはよき出発点となるが、一連のコールを音楽に合わせて踊ってみて始めてタイミングが合っているかどうかわかる。コーラーはまた、タイミング数を調節する必要がある他の要素、例えば、ダンサーの年齢や体力、床の状態などについても注意を払うべきである。

タイミングに対して注意を払うことにより、ダンス経験を高めることが出来る。ダンスは音楽に合わせて初めてうまく踊れるからである。たいていのダンサーは系統立てて教えられたタイミングにはよく反応する。特に、32歩のGrand Square(グランド スクエア)や8歩の4 Ladies Chain(フォー レイディーズ チェイン)である。

スクエアセットからの動作タイミングは長くなる。第1部:Conventions and Rules(約束事と規則):Squared

Set Convention(スクエアセットの約束事)参照。

Styling(スタイリング)

スクエアダンスを踊るということは、体のある場所から別の場所へ、適切な時間で移動することに尽きる。あるダンサーと他の7人のダンサー間にはスクエア内での交流が必要となるが、言ってみれば、スクエアダンスを踊るということは、手で踊るということにもなる。 スタイリングの指針として、一般的にスクエアダンスがどのように踊られるのかを次に述べる。 地域差が存在するが、この件については最後に述べる。

Posture(姿勢)

胸をはり、背筋を伸ばして肩を後ろに引く。 背の高い人はしばしば前屈みになるので気をつける。

Dance Step(歩き方)

スムーズでむりなく滑るように歩を運び、足を前に出す時はまずボールで床を滑るように捕らえ、そしてヒールを静かに床に着ける。 歩幅は極力小さく、膝から進むような感じで、音楽のビートに乗って歩を進める。 ボールとヒールを使って歩幅を短く滑るように歩を進めることができれば、気楽に踊ることができる。

Arms and hands(腕と手)

カプルハンド(カプルの手の取り方):

内側の手を取る。 男性は常に掌を上に向けている状態を保ち、女性はこの手に掌を下にして乗せる。 男性同士、女性同士の場合は左側の人が掌を上に向け、右側の人が下に向ける。 腕を少し曲げ、手は肘より高めにする。 Wheel Around(ウィール アラウンド)のような動作を行う時は、前腕を互いに揃えてしっかりと支えるようにする。

フォアアーム(前腕の取り方):

手は相手の手首を超えるが、肘関節を超えてはいけない。 互いにコールされた動作を行う相手の腕と内側を合わせ、指は親指迄しっかりと揃えて開かない。 回転動作を行う時はこの合わせた腕の真ん中を中心とし、互いに同距離を保って回転する。

シェイクハンド(握手と同じ手の取り方):

楽に手を伸ばして、大体腰の高さで相手の手を軽く握り、親指は相手の手の甲へ出す。 Right and Left Grand(ライト アンド レフト グランド)では、互いに通り過ぎる時に手を離すことが重要で、手をなかなか離さないで身体が反ってしまったり、次の人の手を早く握ろうと前屈みになったりしてはいけない。

ルースハンド(ゆるい手の取り方):

手は互いに接触を保っているものの自由に回転し、適度な安心感と安定感を保持する。 軽く抑えていることも必要となる。

ハンズアップ(手を上げる手の取り方):

掌を交差して手を繋ぐ。 即ち、向かい合った人と指を上に向けて掌を合わせてから、互いに少し外側へ手を傾けた状態。 親指は相手の手の甲へ出して軽く閉じる。 回転動作を伴うので手首は曲げない。

ボックススター/バックサドル(ボックスを作る手の取り方):

四人の男性が掌を下に向けて、それぞれ前の人の手首を軽く握りあって四角を作る。

パームスター:

手の平を前の人の甲に合わせ、指は上に向け親指は前の人の甲にそっと置き、安定させる程度にする。
腕はやや曲げて、組んだ手の高さが目の位置と同じになるようにする。

Inactive dancers (インアクティブ ダンサー)

Other styling terms and issues (他のスタイリングにおける用語と問題)

プルバイ(手を取って引っ張り、通り過ぎる時の手):

二人が互いに近づく動作であるが、身体が互いに通り過ぎる前に手は離しておく。

スカートワーク(スカートを持つ手):

女性は空いている方の手でスカートを腰の位置くらいに持ち、リズムに合わせて軽く前後に振る。 右手は左足、左手は右足の動きに合わせる。

プラマネイド後のトワール:

男性は右手で女性の右手をゆるく取っている。 男性はこの右手を上げ、女性はその下で時計周りに廻り、スクエアセットを作ってカプルの位置で終わる。

BOW(バウ-挨拶) (HONORS-(オーナーズ-敬意を表する挨拶))

To Your Partner(パートナーに対して):

男性: パートナーの方を向いて軽く視線を合わせる。 左手は掌を外に向けて腰部または左臀部へ。 右足は左足の前で女性の方に向けて爪先を床に付けてポイントする。 右手は女性の左手を取る。 両足はまっすぐに伸ばし体重は後足に置く。

女性: パートナーの方を向いて軽く視線を合わせる。 右足は後ろ、左足は爪先を床に付けて前にポイントする。 右手は肘を曲げたままスカートをもちスクエアセットの中心へ広げる。 両足はまっすぐに伸ばし体重は後足に置く。 [男性が腰を少し折って御辞儀をし、女性が膝を軽く折ってこれを受けるといった伝統的な挨拶も認められる。]

To Your Corner(コーナーに対して):

男性: 右手でパートナーの手を取りながらコーナーの方を向いて軽く視線を合わせる。 左手は掌を外に向けて腰部または左臀部へ。 左足は右足の前でコーナーの方にむけて爪先を床に付けてポイントする。 両足はまっすぐに伸ばし体重は後足に置く。

女性: 左手はパートナーの右手に預けたままコーナーの方を向いて軽く視線を合わせる。 右足は左足の前で爪先を床に付けて前にポイントする。 両足はまっすぐに伸ばし体重は後足に置く。 [男性が腰を少し折って御辞儀をし、女性が膝を軽く折ってこれを受けるといった伝統的な挨拶も認められる。]

Regional styling differences (スタイリングにおける地域差)

コーラーラブではスタイリングにおける地域差が存在することを認識している。

Teamwork (チームワーク)

Embellishments (装飾用語)

追記

追記A： 隊形

この追記部はまだ見直しを行い、承認を受ける必要がある。読者は<http://www.callerlab.org/> の Program Documents 項 Square Dance Formations を参照願いたい。

2-Dancer Formations (ダンサー2人の隊形)

ダンサーが向い合った隊形： 向い合ったダンサーは特に指定されなければ男性と女性の組み合わせである。

カプルの隊形： カプルは特に指定されなければ男性と女性の組み合わせである。

4-Dancer Formations (ダンサー4人の隊形)

8-Dancer Formations (ダンサー8人の隊形)

追記B： 記述用語法

次に示す用語は動作を定義する際に使われ、スクエアダンスで一般的に使われるものである。

Adjacent (アジェイセント)

二人のダンサーが間にスペースや他のダンサーが介在せず隣接している状態で、カプルまたはミニウェイブに使われるのが一般的である。

Couples (カプルズ)

- Normal Couple (ノーマル カプル) : 男性が左、女性が右にいるカプル。
- Sashayed Couple (サシェイド カプル) : 女性が左、男性が右にいるカプル。
- Same Sex Couple (セიმ セックス カプル) : 女性二人または男性二人のカプル。

注： カプルは”Formation Pictogram (隊形図表)”1 ページに定義される隊形の一つである。

Face Left (フェイス レフト) / Right (ライト) / In (イン) / Out (アウト)

- Face Left : それぞれが一人でその場で90度左を向く。
- Face Right : それぞれが一人でその場で90度右を向く。
- Face In : それぞれが一人でその場で90度スクエアセットの中心を向く。
- Face Out : それぞれが一人でその場で90度スクエアセットの中心を背にして外を向く。

Home (ホーム)

ダンスを始める前に、当初スクエアセットを作った時ダンサーが立った位置。

Left (レフト)

動作の前につけられた場合、動作の間中すべての右と左とを置き換えるようダンサーに指示する言葉である。“付加細目:Commands(指示):Extensions like Reverse Wheel Around(リバース ウHEEL アラウンドのような応用)”を参照。

Opposite(オポジット)

1. ホームでスクエアセットを作った時、ダンサーのDiagonal Opposite(ダイアゴナル オポジット)はその反対側にいる同性のダンサーである。例えば、サイドの女性二人はDiagonal Opposite(ダイアゴナル オポジット)である。左右対称のコール構成(“Choreographic Guideline(コール構成の指針)”28ページ参照)では、Diagonal Opposite(ダイアゴナル オポジット)はいつも互いにセットの反対側にいる。
2. 男性から見ると、ホームでスクエアセットを作った時、セットの反対側にいる女性はそのOpposite Lady(オポジット レイディ)である。Partner(パートナー)、Corner(コーナー)、Right-Hand Lady(ライト ハンド レイディー)に加えて、男性から見える、4人の女性を言い表すことができる。(歴史的に見て、スクエアダンス用語はより男性に対して与えられる。)

Promenade Direction(プラマネイド ディレクション)

- ・ Promenade Direction(プラマネイド ディレクション):反時計回り方向。
- ・ Wrong Way Promenade Direction(ロング ウエイ プラマネイド ディレクション):時計回り方向。

Pull By(プル バイ)

- ・ Right Pull By(ライト プル バイ): ダンサーが向かい合った状態から、あたかも握手をするように右手をとり、瞬時に静かに引っ張って前進を始め、パス スルー動作を行う。ダンサーは互いに通り過ぎると、とっていた手を放し、引き続き次のダンス動作へ移行するか、調整して背中合わせで終わる。手はしっかりと取り、各ダンサーが随意に手を離さないようにすべきである。オーシャン ウェーブの規則は適用される。
- ・ Left Pull By(レフト プル バイ): Right Pull By(ライト プル バイ)と同じであるが、左手から始めて、左肩で通り過ぎる。
- ・ Pull By(プル バイ): (例えば、“Box The Gnat; Pull By”) 既に右手(または左手)をとっているダンサーが向かい合った状態から、Right Pull By(ライト プル バイ)またはLeft Pull By(レフト プル バイ)。

Rear Back(レア バック)

ダンサーが手を取っている状態から、通常ミニウェーブであるが、ダンサーは少し後ろに下がり、即ち、後ろに少しもたれかかるように動き、手を取って向かい合い動作を終わる。オーシャンウェーブの規則がしばしば役に立つ。例えば、“Heads Lead To The Right; Swing Thru; Rear Back: Right And Left Grand”である。

Reverse(リバース)

動作の前につけられ、一般的に、動作の間中時計回りと反時計回り方向(そしてまた右と左)を置き換えるようダンサーに指示する言葉である。“付加細目:Commands(指示):Extensions like Reverse Wheel Around(リバース ウHEEL アラウンドのような応用)”を参照。

Right-Hand Lady(ライト ハンド レイディー)

男性から見ると、ホームでスクエアセットを作った時、その斜め右にいる女性(即ち、Lead Right後に向かい合う人)がそのRight-Hand Lady(ライト ハンド レイディー)と呼ばれる。Partner(パートナー)、Corner(コーナー)、Opposite Lady(オポジット レイディ)に加えて、男性から見ると、4人の女性を言い表すことができる。(歴史的に見て、スクエアダンス用語はより男性に対して与えられる。)

Set or Square (セットまたはスクエア)

ともに踊る8人のグループ。

Step Thru (ステップ スルー)

ミニウエイブから隣接するダンサーが一步進んで、少し横に動き、互いに背中合わせで終わる。

Turn 1/4 (ターン クォーター) / 1/2 (ハーフ) / 3/4 (スリークォーターズ) /

Full Turn By The Left/Right (フル ターン バイ ザ レフト/ライト)

ミニウエイブから、ダンサーは互いに歩を進めて、円上を指示された分数だけ回る。手の取り方は動作によって決まり、一般的にはスタイリング部門で示される。

Those Who Can (ゾウズ フー キャン)

動作の前につけられる言葉で、その動作を行うに適切なダンサーを指す。他のダンサーは何もしない。例えば、"Those Who Can, Pass Thru"は向かい合っている(または右手のミニウエイブの)ダンサーのみがこの動作を行う。

Working As A Unit (ワーキング アズ ア ユニット)

一群のダンサーに、あたかも一人のダンサーであるかのように動き移動するよう求める言葉遣いである。

追記C: その他の刊行物

この追記部はまだ見直しを行い、承認を受ける必要がある。

Publications for dancers (ダンサー用刊行物)

Publications for callers (コーラー用刊行物)

Foreign language publications (外国語刊行物)

2000年9月20日以降の変更履歴

変更日	変更事項
2001年08月22日	FAN THE TOP を削除しプラスへ移動。 EIGHT CHAIN THRU を削除しプラスへ移動。 SPIN CHAIN THRU を削除しプラスへ移動。
2002年04月29日	HALF TAG THE LINE の定義を訂正。
2002年08月12日	序文における FAN THE TOP と SPIN CHAIN THRU の参照項を向い合ったカプルのルールから削除。
2003年01月14日	序文における動作を始める隊形の図を移動。
2003年03月18日	スタイリングにおける地域差の記述を序文に追加。
2003年04月27日	補遺における#37(ALAMO RING FORMATION)を”#36(d)WAVE BALANCE”に変更。
2003年08月01日	EIGHT CHAIN THRU を MS に追加。
2003年09月11日	SEE SAW の定義を変更。 ALL AROUND LEFT HAND LADY を ALL AROUND THE CORNER に変更。 ARM TURNS の参照項を補遺から本文の動作 #7(b) と #7(c) へ変更。
2003年10月10日	SEE SAW のスタイリング記述を訂正。
2004年03月04日	PARTNER TAG スタイリング(タイミング)を TAG Family から削除。
2005年04月26日	著作権についての注意を改訂。
2005年08月19日	DOSADO 定義からダンサーについての助言を削除。 RIGHT AND LEFT THRU と FLUTTERWHEEL 定義における参照項を訂正。
2005年09月19日	FLUTTERWHEEL スタイリングで前腕回転に対する参照項を訂正。
2006年10月19日	“ベーシックとメインストリームの定義”を改名。 SPIN CHAIN THRU を追加。 STAR PROMENADE を PROMENADE FAMILY へ移動。 TAG THE LINE と HALF TAG THE LINE のタイミングを訂正。
2008年01月09日	ALL AROUND THE CORNER を WALK AROUND THE CORNER に改名。 SPLIT TWO と SEPARATE を補遺から移動。 SPLIT THE OUTSIDE COUPLE を SPLIT TWO に置き換え、SEPARATE の定義を訂正。 ALLEMANDE LEFT IN THE ALAMO STYLE と BALANCE を補遺から移動。 WRONG WAY PROMENADE を Promenade Family に追加。
2008年04月04日	新しく書き改めたMS定義の採用開始。 #10 までの動作および他の19動作を2004年3月に承認された記述文に更新。 2008年2月に承認された次の5動作を追加。 ALAMO STYLE 名を更新。ダンサー名を序文に移動。 CIUCULATE の記述を補遺から併合し、記載事項の改変、新しい図を使った。
2008年05月23日	THAR FAMILY と OCEAN WAVE FAMILY を更新。 補遺からの資料は偶発的に欠落。
2008年07月30日	隊形図表へのリンクを更新。
2009年03月12日	Leaders/Trailers の追加。
2009年09月09日	PASS THE OCEAN を更新。 2009年9月1日発行の講習順序に合致するよう動作の順序 および番号を更新。 Swing Thru, Trade Family、Ocean Wave Family、Ladies Chain の書式を小変更。
2009年11月01日	“The Facing Couples Rule が適用できる動作”に Swing Thru と Spin Chain Thru を加える。
2010年03月17日	Courtesy Turn、Centers In、Cast Off 3/4 の定義更新。 第4部付加細目内の Timing(タイミング)に新定義採用。 Bend The Line (ベンド ザ ライン)のタイプミスを変更修正
2010年06月18日	ワードへの変更。 比較的重要でない変更。
2010年07月27日	Courtesy Turn(カーテシー ターン)の注釈 #1をより良い表現に改訂。
2010年12月03日	Grand Square (グランド スクエア)の定義を更新。 Circle to A Line (サークル トゥ ア ライン) と California Twirl (キャリフォルニア トワール)、Shoot the Star (シュート ザ スター)と Slip the Clutch(スリップ ザ クラッチ)の講習順序を入れ替え。
2010年12月23日	Chain Down The Line (チェイン ダウン ザ ライン)の動作を始める隊形を修正。
2011年01月18日	著作権表示の更新。 ワードへの変更時に生じた誤り(最終図が異なる)の訂正。(日本語での定義集には適用されない。)
2011年02月19日	Walk Around the Corner (ウオーク アラウンド ザ コーナー)で “the” を小文字標記に変更。
2011年03月16日	Circle to a Line (サークル トゥー ア ライン)および Veer Left (ビアー レフト)/Veer Right (ビアー ライト)の定義を更新。
2011年05月13日	ベーシック動作をベーシック1およびベーシック2に分割、また比較的重要でない変更を行った。
2011年07月28日	7ページのパートナーとコーナー (Partner/Corner) 注釈における男性男性女性女性(BBGG)の表現を削除。 14ページの 1.a.事例1:8人のダンサーで、スタイリングにおける男性男性女性女性(BBGG)の表現を削除。
2011年10月03日	11ページの隊形表に一般的なタッグ隊形: “Center 6” を追加。
2011年10月07日	Ladies Chain Family (レイディーズ チェイン ファミリー) および Sea Saw (シー ソウ) の定義を更新。
2012年05月02日	Wheel Around (ウィール アラウンド) と Square Thru (スクエア スルー) の定義を更新。 Partner Corner (パートナー コーナー)に関する項目を削除。
2012年08月07日	標準化についての記述を改定。
2013年02月22日	Promenade Family (プラマネイド ファミリー)、Circulate Family (サーキュレイト ファミリー)、Box the Gnat (ボックス ザ ナット)の新定義化。
2013年05月31日	Thar Family (ザー ファミリー)、Slip the Clutch(スリップ ザ クラッチ)、Shoot the Star(シュート ザ スター)の新定義化。追記B:記述用語法を追加。比較的重要でない校訂。

2016年08月26日	Flutter Wheel (フラター ウィール)に Facing Couples (向かい合うカプル)の Timing (タイミング) を追加。
2017年03月09日	Ocean Wave Family (オーシャン ウェーブ ファミリー)、Run/Cross Run (ラン/クロス ラン)、Flutterwheel/Reverse Flutterwheel(フラターウィール/リバース フラターウィール)、Swing Thru/Left Swing Thru(スイング スルー/レフト スイング スルー)およびEight Chain Thru(エイト チェイン スルー)の新定義。
2017年03月22日	Eight Chain Thru(エイト チェイン スルー)のエラーと様式の修正。著作権表示の更新。
2017年03月26日	Tag the Line(タッグ サ' ライン)/Half Tag(ハーフ タッグ) の新定義
2017年05月08日	Hinge Family(ヒンジ ファミリー) の新定義
2017年08月13日	ベーシック・コールを別分冊に分割。「前置き」を更新。参照する部分の相互参照リンクを作成。
2017年12月18日	Walk And Dodge(ウォーク アンド ドッジ)の新定義。
2018年06月22日	Cloverleaf (クローバーリーフ)定義(コマンド例)の一部修正。
2018年09月01日	Allemande Thar(アレマンド ザー)、Slip the Clutch(スリップ ザ クラッチ)および Shoot the Star(シュツツ ザ スター)を追加(ベーシックより移動)。 また 1/4 Tag(ワン クォーター タッグ)、3/4 Tag(スリー クォーター タッグ)を Half Tag(ハーフ タッグ)に追加。)
2018年10月27日	コールの番号を付け替えた。 そして Fractional Tag(分数タッグ)の新しい定義を追加。
2019年03月09日	Dexie Style to an Ocean Wave(デキシー スタイル トゥ アン オーシャン ウェーブ)の新定義。コール番号の参照の付け替え。
2019年04月27日	Scoot Back(スクートバック)と Fold/Cross Fold(フォールド/クロスフォールド)の新しい定義。項目参照の誤りを修正。目次の更新。
2019年07月13日	アルファベット順コールリストを追加。
2019年07月31日	アルファベット順コールリストを修正。
2019年11月02日	Spin Chain Thru(スピン チェイン スルー) と Recycle(リサイクル)の新定義。Spin the Top(スピン サ' トップ)の「動作」の更新。変更履歴を最後部に移動。
2020年02月22日	著作権表示の更新。目次に変更履歴を追加。Spin Chain Thru(スピンチェインスルー) のコメント中のコマンド例を一部修正。

© 1994, 2000-2020 CALLERLAB、国際スクエアダンスコーラーズ協会

再印刷、再出版、使用料の発生しない配布物の製作はこの文章表示を条件にこれを許可する。
 使用料の発生しないインターネットでの刊行はこの文章表示を条件にこれを許可する。
 使用料の発生しない一部または全ての引用はこの文章表示を条件にこれを許可する。
 いかなる配布物製作または刊行においても本書内の情報は変更されまた改訂されてはならない。

この資料はCALLERLABの許諾を得て、一般社団法人日本スクエアダンス協会
国際交流委員会委員の尾崎隆敏氏に翻訳していただき、同協会技術委員会が確
認・承認しています。

第7版以降は同協会SD小委員会委員で翻訳・確認をおこない、技術委員会が承認
をしています。

2009年06月08日	初版発行
2010年05月05日	第2版発行
2011年02月01日	第3版発行
2012年06月10日	第4版発行
2012年12月10日	第5版発行
2014年04月01日	第6版発行
2016年09月10日	第7版発行
2017年07月01日	第8版発行
2017年12月11日	分割第1版発行
2018年02月10日	分割第2版発行
2018年07月08日	分割第3版発行
2018年12月25日	分割第4版発行
2019年01月20日	分割第4版改発行
2019年03月25日	分割第5版発行
2019年06月10日	分割第6版発行
2019年09月01日	分割第7版発行
2020年01月10日	分割第8版発行
2020年03月10日	分割第9版発行

発行 一般社団法人日本スクエアダンス協会